

2022年度（令和4年度）

シラバス

総合科学科目

専門基礎科目

専門展開科目

岐阜保健大学
リハビリテーション学部理学療法学科

科目 区分	授業科目	配当 年次			配当 年次	必修	選択	時間 数	氏名	氏名	氏名
総合科学科目	基礎ゼミナール	1年	前期	必修	1前	1		30	理学療法学科専任教員全員		
	情報科学	1年	前期	必修	1前	1		30	國澤英雄		
	基礎統計学	1年	前期	必修	1前	1		30	國澤英雄		
	問題解決法	1年	後期	選択	1後		1	30	西牟田祐美子		
	哲学	1年	前期	選択	1前		1	30	鷺見コト江		
	英語Ⅰ	1年	前期	必修	1前	1		30	西牟田祐美子		
	英語Ⅱ	1年	後期	必修	1後	1		30	西牟田祐美子		
	中国語Ⅰ	2年	前期	選択	2前		1	30	干海		
	中国語Ⅱ	2年	後期	選択	2後		1	30	干海		
	教育学概論	1年	前期	必修	1前	2		15	伊藤亜希子		
	現代の倫理	1年	前期	必修	1前	2		15	鷺見コト江		
	現代の教育	2年	後期	選択	2後		2	15	伊藤亜希子		
	心理と行動	1年	後期	選択	1後		2	15	石井友明		
	健康と生活	1年	前期	選択	1前		2	15	鈴木 啓介	藤井稚也	廣田 薫
	岐阜県の歴史と文化	2年	前期	選択	2前		2	15	池田雅志		
	自己管理と社会規範	1年	前期	選択	1前		2	15	高山 務		
	人間関係論	1年	前期	必修	1前	2		15	市川季夫		
	コミュニケーション論	1年	後期	必修	1後	1		15	國澤英雄		
	健康と運動（体育）	1年	前期	必修	1前	1		30	青崎浩士	石塚 和重	
専門基礎科目	解剖学	1年	前期	必修	1前	2		30	高井良招		
	解剖学演習	1年	後期	必修	1後	1		30	高井良招		
	機能解剖学	1年	後期	必修	1後	1		30	高井良招		
	機能解剖学演習	2年	前期	必修	2前	1		30	高井良招		
	生理学Ⅰ	1年	前期	必修	1前	1		30	太田美智男		
	生理学Ⅱ	1年	後期	必修	1後	1		30	太田美智男		
	生理学演習	2年	前期	必修	2前	1		30	太田美智男		
	運動学Ⅰ	1年	前期	必修	1前	1		30	酒向俊治	小澤敏夫	原 和子
	運動学Ⅱ	1年	後期	必修	1後	1		30	酒向俊治	小澤敏夫	原 和子
	運動学演習	2年	前期	必修	2前	1		30	近藤崇史		
	生命倫理	1年	前期	必修	1前	1		15	太田美智男		
	人間発達学	1年	後期	必修	1後	1		30	平岡 翠		
	病理学	1年	後期	必修	1後	1		30	川田憲司		
	感染防御と安全管理	1年	後期	必修	1後	1		15	太田美智男		
	臨床心理学	2年	前期	必修	2前	1		30	西牟田祐美子		
	一般臨床医学	1年	後期	必修	1後	1		30	河田美紀		
	呼吸循環器内科学	2年	前期	必修	2前	1		30	河田美紀		
	神経内科学	2年	前期	必修	2前	1		30	河田美紀		
	整形外科学	2年	前期	必修	2前	1		30	河田好泰		
	精神医学	2年	前期	必修	2前	1		30	井上真人		
	小児科学	2年	前期	必修	2前	1		30	近藤直実		
	栄養代謝学	2年	後期	必修	2後	1		15	森 裕志		
	医療薬理学	2年	後期	必修	2後	1		15	永井博弋		
	リハビリテーション工学	2年	後期	必修	2後	1		15	就任予定者		
	スポーツリハビリテーション概論	2年	前期	必修	2前	1		15	石塚和重		
	老年学	2年	後期	必修	2後	1		30	河田美紀		
	リハビリテーション医学	1年	後期	必修	1後	2		15	江崎正浩		
	リハビリテーション概論	1年	前期	必修	1前	2		15	酒向俊治	小澤敏夫	
	地域包括ケアシステム論	1年	後期	必修	1後	1		15	小島 誠	藤井稚也	
	社会福祉概論	2年	前期	選択	2前		1	15	市川季夫		
専門展開科目	理学療法学概論	1年	後期	必修	1後	2		15	小澤敏夫		
	表面解剖学	1年	後期	必修	1後	2		15	酒向俊治		
	臨床運動学	2年	前期	必修	2前	2		15	小澤敏夫	近藤崇史	
	理学療法評価概論	1年	後期	必修	1後	1		30	酒向俊治	鈴木 啓介	
	理学療法評価検査・測定論Ⅰ	2年	前期	必修	2前	1		30	青木成広	鈴木 啓介	小池孝康
									岩島 隆		
	理学療法評価検査・測定論Ⅱ	2年	後期	必修	2後	1		30	小久保晃	鈴木啓介	小池孝康
									岩島 隆		
	運動療法学	2年	前期	必修	2前	1		30	石塚 和重	近藤崇史	
	運動療法学演習	2年	後期	必修	2後	1		30	石塚 和重	近藤崇史	
	物理療法学	2年	前期	必修	2前	1		30	青木成広		
	物理療法学演習	2年	後期	必修	2後	1		30	青木成広		
	日常生活活動学	2年	前期	必修	2前	1		30	小島誠	稲葉政徳	
	日常生活活動演習	2年	後期	必修	2後	1		30	小島誠	稲葉政徳	
	義肢装具学	2年	後期	必修	2後	1		30	酒向俊治		
	理学療法基礎治療技術論	2年	後期	必修	2後	2		15	石塚和重		
	中枢神経系理学療法学	2年	後期	必修	2後	2		15	石塚和重	高橋 洋	
	運動器系理学療法学	2年	後期	必修	2後	2		15	小澤敏夫	鈴木啓介	
	スポーツ障害理学療法学	2年	後期	必修	2後	1		15	石塚和重		
	発達障害理学療法学	2年	後期	必修	2後	1		15	石塚和重	稲葉政徳	
	内部障害理学療法学	2年	後期	必修	2後	2		15	酒向俊治	渡辺伸一	鈴木啓介
	地域理学療法学	2年	前期	必修	2前	2		15	小島 誠		
	臨床実習Ⅰ（基礎）	1年	後期	必修	1後	1		45	理学療法士教員全員		
	臨床実習Ⅱ（地域）	2年	前期	必修	2前	1		45	理学療法士教員全員		
	実践力演習Ⅰ	1年	後期	必修	1後	1		30	理学療法士教員全員		
	実践力演習Ⅱ	2年	後期	必修	2後	1		30	理学療法士教員全員		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	基礎ゼミナール	担当教員名	理学療法学科専任教員全員 酒向俊治・石塚和重・小澤敏夫・渡辺信一・鈴木啓介・岩島隆・小久保晃・近藤崇史・青木成広・稲葉政徳・小池孝康・小島誠【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数クラスによる教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・リハビリテーションのトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルを修得し、リハビリテーション学に対する学びの意欲を高める。		
到達目標	大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法と、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルを身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	イントロダクション・大学での学び	大学での学びの特色や目的について、意見交換を交えながら学ぶ。	
第2回	リハビリテーション学部の学び	リハビリテーション学部の4年間の学びについて概観し、これから学ぶカリキュラムを把握する。	
第3回	リハビリテーション職としてのキャリア設計	国家試験の受験と就職、その後のリハビリテーション職としてのキャリアパスについて学び、キャリア意識を高める。	
第4回	医療職とは	医療専門職全般について学ぶ。	
第5回	図書館の利用	図書館の利用方法と、大学における読書方法、読書の重要性について学ぶ。	
第6回	インターネットの利用	インターネット、携帯電話、SNSの利用方法、そのリテラシーについて学ぶ。	
第7回	文献・資料の検索・収集方法①	学術文献の検索と収集の方法について、具体的な課題に基づきグループワークを行い、資料を収集する。	
第8回	文献・資料の検索・収集方法②	学術文献の検索と収集の方法について、具体的な課題に基づきグループワークを行い、発表を行う。	
第9回	レポートの書き方①	大学におけるレポートの書き方について具体的に学び、特定の課題についてレポートを作成する。	
第10回	レポートの書き方②	作成したレポートを発表し、意見交換を行う。	
第11回	発表（プレゼンテーション）の方法①	パワーポイント等を使用した発表（プレゼンテーション）の方法について学び、その準備を行う。	
第12回	発表（プレゼンテーション）の方法②	個々の課題について発表を行い、意見交換を行う。	
第13回	議論（ディスカッション）の方法	議論（ディスカッション）の方法について学ぶ。	
第14回	学生による個別テーマの発表と議論①	本授業のまとめとして、学生による個別テーマの発表を行い、その内容について議論を行う。	
第15回	学生による個別テーマの発表と議論②	本授業のまとめとして、学生による個別テーマの発表を行い、その内容について議論を行う。	
テキスト・参考書	テキスト:特に指定しない。毎回資料を配布する。		
学修方法	10名程度の少人数クラスでの演習形式で授業を行う。		
評価方法	講義中の発表（50％）、レポート（50％）		
オフィスアワー	講義終了後 10分		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	情報科学	担当教員名	國澤 英雄【実務該当教員】
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	大学での学びに必須となる基礎的な情報科学について教授する。 Windows PCの基礎知識と大学内のPC・ネットワークを活用する方法を知ったうえで、レポート、卒業研究、その他あらゆる資料を 作成するために必要なソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint）を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションの 技術を身につける。なお本講座ではWord、Excel、Power Pointとも、基本的な内容が機能的に網羅されているために、これらのソフトウェアの一般的な活用が可能となる。		
到達目標	① 電子メールの作成、送信、受信ができる。 ② Wordを用いて文書・表が作成ができる。書式の設定・段組みができる。アートの挿入ができる ③ Excelを用いてグラフ・表の作成の作成や計算ができる。シート設定・作業グループの変更ができる。 ④ PowerPointを用いてプレゼンテーション資料の作成ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	PCの基本、ネットワークの活用	PCの情報処理の原理、ハードウェア、学内ネットワークの活用	
第2回	Word基本操作	Wordの起動・終了、ファイル操作、文字の入力・変換	
第3回	Word文章の作成	文書の確認、ページ設定、コピー・移動、保存	
第4回	Word表の作成	表の作成、表の範囲の選択、表のレイアウトの変更	
第5回	Word文章の編集	様々な書式の設定、段組みの設定	
第6回	Word表現力のアップ	ワードアートの挿入、クリップアートの挿入、図形の作成	
第7回	Excel基本操作	Excelの起動・終了、ブックを開く・セル指定、スクロール	
第8回	Excelデータの入力	データの入力・編集、セルの範囲の選択、ブックの保存	
第9回	Excel表の作成	関数の入力、罫線・塗りつぶしの設定、表示形式の設定	
第10回	Excel数式の入力	関数の入力の確認、様々な関数の利用、相対参照・絶対参照	
第11回	Excel複数シートの操作	シート名の変更、作業グループの設定、シートの移動・コピー	
第12回	Power Point画像の加工	図の外観の変更、図の回転・トリミング、図の背景の削除	
第13回	Power Pointグラフィックの活用	ページ設定の変更、背景の設定、図形の作成、配置の調整	
第14回	Power Pointマルチメディアの活用	ビデオの挿入、ビデオの編集、オーディオの挿入	
第15回	Power Pointスライドのカスタマイズ	スライドマスターの表示・編集、ヘッダー・フッターの挿入	
テキスト・参考書	教科書：「よくわかる Microsoft Word 2019 基礎」（FOM出版）ISBN 978-4-86510-382-3 教科書：「よくわかる Microsoft Excel 2019 基礎」（FOM出版）ISBN 978-4-86510-380-9 教科書：「よくわかる Microsoft PowerPoint 2019 基礎」（FOM出版）ISBN 978-4-86510-384-7		
学修方法	各テーマについての講義、演習を行う。講義には教科書に加えてプリントを使う。		
評価方法	演習問題の成績（40％）、定期試験成績（60％）		
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	基礎統計学	担当教員名	國澤 英雄【実務該当教員】
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	近年リハビリテーションの分野でも、実証的なデータを解析するために必要な統計学的手法を身につけることが求められている。そこで本講座では、ヒストグラムの意義と作成、確率の概念、確率分布、標本分布、母平均、分散 の推定、母平均の信頼区間、仮説検定、相関と回帰、カイ二乗検定、平均値に対する推定等の分析手法を学習する。リハビリテーション分野を中心として、多くの医療分野での具体的な統計の実例を示すとともに、各单元毎に、演習問題を解き統計学の理解を深める。		
到達目標	① 基本統計量（平均、標準偏差）、標準誤差、変動係数、箱ひげ図などを使ってデータの整理ができる。 ② 正規性の確認、片側検定・両側検定、仮説検定など統計的推論の基礎を理解し、活用できる。 ③ 相関係数の検定と推定、回帰直線の検定と信頼区間など相関係数と回帰直線の推論ができる。 ④ データ分析ををもとに、罹患率と死亡率の推定など頻度に対する推論・生存に関する推論ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	医学データの整理 1	ヒストグラム、平均、分散、標準偏差	
第2回	医学データの整理 2	標準誤差、変動係数、中央値、箱ひげ図	
第3回	医学データの整理 3	散布図、相関係数、回帰直線	
第4回	統計学推論推論の基礎 1	正規分布、正規性の確認、二項分布Poisson分布	
第5回	統計学的推論の基礎 2	仮説検定の考え方、片側検定と両側検定、検定統計量と有意水準	
第6回	統計学的推論の基礎 3	標準正規分布、カイ二乗分布、 t 分布、F分布	
第7回	平均値に関する推論	正規母集団の母平均 μ に関する推定、二つの母平均の差の検定	
第8回	相関係数と回帰係数に関する推論 1	相関係数の検定と信頼区間	
第9回	相関係数と回帰係数に関する推論 2	回帰係数の検定と信頼区間	
第10回	頻度の関する推論 1	Proportionとrate、母 p に関する推定、2×2分割表の χ^2 検定	
第11回	頻度の関する推論 2	Fisherの正確な検定、対応のある2つの母比率の差の検定	
第12回	頻度の関する推論 3	罹患率、死亡率に関する推測、厄病発生のリスク比較	
第13回	生存時間に関する推論	生存率曲線、生存率のKaplan-Meierの推定法	
第14回	実験計画法-分散分析 1	一元配置分散分析、正規性・等分散の確認、順位検定	
第15回	実験計画法-分散分析 2	完備乱塊法、Friedmanの順位検定、ラテン方格法	
テキスト・参考書	グレクサにて配信する		
学修方法	グレクサにて資料に基づいた予習復習を心掛けること。電卓を持ってくること		
評価方法	演習問題の成績（40％）、定期試験成績（60％）		
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	問題解決法	担当教員名	西牟田祐美子【実務該当教員】
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中であって、自らの課題をどのように設定するのか、具体的なあるべき姿はどのようにして描いていけるのかなどが課題となる。問題解決法とはこれからの人生設計・自己実現のために何を人生の目的とするのか、その目的のために具体的な目標を立てそれに向かって具体的な計画を立てていくためのポイントなどを取り扱う。		
到達目標	自己とは何か？自分とは何かという問いかけなしに自己実現、人生の目的は設定できない。この授業では古典的心理学者たちの自己の在り方、また自己実現を学修しながら、自分なりの目的を探す手がかりとする。また実際行っていく中で遭遇する問題を自分なりに特定し、その対処法も思索させる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	自己とは何か	テキスト、プリントを基に自己とは何か自分なりに考察する。	
第2回	フロイトの考える自我、自己	テキスト、プリントを基に、フロイトの考える自我、自己を理解する。	
第3回	ユングの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ユングの考える、自己と自己実現を理解する。	
第4回	アードラーの考える、自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、アードラーの考える自己と自己実現を理解する。	
第5回	マズローの考える自己実現	テキスト、プリントを基に、マズローの考える欲求と自己実現を理解する。	
第6回	行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、行動療法の考える自己と問題解決法を理解する。	
第7回	まとめ レポート	まとめ、レポート	
第8回	認知行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、認知行動療法の考える自己と問題解決を理解する。	
第9回	ヒューマニスティックアプローチの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ヒューマニスティックアプローチの自己と自己実現を理解する。	
第10回	アサーティブネスと自己実現	テキスト、プリントを基に、アサーティブネスを理解する。	
第11回	コーピングと自己実現	テキスト、プリントを基に、コーピングを理解する。	
第12回	ジェンダーと自己実現	テキスト、プリントを基に、ジェンダーと自己、自己実現を理解する。	
第13回	カウンセリングと自己実現	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと自己実現を理解する。	
第14回	カウンセリングと問題解決	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと問題解決を理解する。	
第15回	まとめ	授業を総括した講義を行う	
テキスト・参考書	別途指示する。		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	筆記テスト30%、授業への取り組み65%、レポート5%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。この科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。毎時間提出する振り返りシートや課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	哲学	担当教員名	鷲見コト江
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。看護は実践の科学であると共に、看護の対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。		
到達目標	フランスの哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考えに従って、現代の科学の発見も踏まえて、「命とは何か」「人間とは何か」を考えていきたい。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	哲学誕生	ギリシア哲学とは	
第2回	哲学とは	哲学の課題	
第3回	愛知学としての哲学	哲学の意味	
第4回	科学と哲学	科学と哲学の違い	
第5回	ベルクソンの存在論	存在とは	
第6回	現代の宇宙論	宇宙とは	
第7回	宇宙の歴史	物質誕生	
第8回	ベルクソンの生命論	創造的進化とは	
第9回	現在の生命論・進化論	生命とは・生命の進化とは	
第10回	人類の歴史	ホモサピエンス誕生	
第11回	ベルクソンの人間論	人間とは	
第12回	心的存在者としての人間	人体と自己	
第13回	社会的心的存在者としての人間	障害者と健常者	
第14回	発達障害とは	発達障害者の心	
第15回	医学と看護	澤瀉久敬の看護論	
テキスト・参考書	テキスト：指定しない。 参考図書：講義中に指示します。		
学修方法			
評価方法	授業の参加状況10%、学習課題40%、最終試験またはレポート50%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 10～15分間 非常勤講師控室		
備考・履修条件	ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題について自分でよく考えること。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	英語 I	担当教員名	西牟田 祐美子【実務該当教員】
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語 I」では、日常生活及び将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。		
到達目標	① 英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 ② 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介, 他己紹介の練習	
第2回	Emergency and vital signes	救急とバイタルサインに関する英語	
第3回	Radiology	レントゲンに関する英語	
第4回	Bones	骨に関する英語	
第5回	Body parts	身体の部位に関する英語	
第6回	Body organs	臓器に関する英語	
第7回	Hospitalization	入院に関する英語	
第8回	Medicine	投薬に関する英語	
第9回	Nutrition and Allergies	栄養とアレルギーに関する英語	
第10回	Mataninity out patient	妊娠出産に関する英語	
第11回	Pediatric Outpatient	小児科外来と幼児英語	
第12回	Out of hospital	退院に関する英語	
第13回	Palliative care	緩和ケア、ホスピスに関する英語	
第14回	Visitor	面会に関する英語と、海外医療	
第15回	Making suggestions	提案に関する英語、まとめのテスト	
テキスト・参考書	テキスト：英語で学ぶプライマリーケア 西牟田祐美子編著 講談社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてオンライン資料を適宜使用する。		
評価方法	筆記テスト60%、プレゼン10%、宿題30%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習, 復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	英語Ⅱ	担当教員名	西牟田祐美子【実務該当教員】
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅱ」では、「英語Ⅰ」の続編として、将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用い、複雑な会話やコミュニケーションができる能力を養う。また保健医療に関する文献等を使い、その読解力を向上させる。保健医療の用語を英語で表現し、自らの意見も英語で表現できることを目指す。		
到達目標	英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	会話、夏休み	スクラップページを作成する。	
第2回	プレゼンテーション	リハビリテーションについて書く。	
第3回	フィットネス/ダイエット	食品群について理解する。	
第4回	ブレインストーミング、単語	新出単語の復習をする。	
第5回	怖い話	怖かった出来事について作文する。	
第6回	ハロウィン	仮定法の練習をする。	
第7回	発音、許可を求める	空欄を埋める	
第8回	アドバイスする	質問文を作る	
第9回	過去について話す	写真を準備する	
第10回	経験についての文章をつくる。	完了形(現在、過去)の文の練習をする。	
第11回	こうであったら、と想像する	仮定法過去完了の文の練習をする。	
第12回	リスニング	歌を覚える	
第13回	歌、ダイアログ	カード、手紙を書く。	
第14回	復習	学修したことを単語中心に復習する。	
第15回	確認テスト	学修したことをまとめて復習する。	
テキスト・参考書	適宜教材を印刷して渡す。		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	筆記テスト20%、プレゼン20%、授業態度25%、宿題10%、クイズ20%、ロールプレイ5%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	中国語 I	担当教員名	干海
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	中国語の基礎について学修する。中国語で読む、書く、話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を目標とする。まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようにする。中国語の基礎として、音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。挨拶や自己紹介から始め、簡単な会話ができるように、多くの会話練習ができるような講義を目指す。		
到達目標	中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	中国語概論	中国語の特性を概説する	
第2回	中国語の表現	正書法の決めを説明する	
第3回	中国語の音声①	中国語のメロディーを詳説する	
第4回	中国語の音声②	単母音、そり舌音と複母音を詳説する	
第5回	中国語の音声③	鼻母音、子音と声調変化を詳説する	
第6回	中国語の語順	語順の3原則を詳説する	
第7回	中国語の表現の骨組	日本語との共通点及び相違点を提示する	
第8回	中国語の表現の構造	基本単語（1）を説明する	
第9回	中国語の表現①	命題とモダリティーについて詳説する	
第10回	中国語の表現②	あいさつ言葉について説明する	
第11回	中国語の表現③	人称代名詞と名詞述語文を詳説する	
第12回	中国語の表現④	指示代名詞と形容詞述語文を詳説する	
第13回	中国語の表現⑤	疑問詞疑問文と省略疑問文を詳説する	
第14回	中国語の表現⑥	副詞、助動詞と連動文を詳説する	
第15回	中国語の表現⑦	動詞述語文、「有」、「的」を詳説する	
テキスト・参考書	テキスト プリント配布 参考図書 随時紹介する。		
学修方法			
評価方法	授業態度30%、筆記試験70%により評価する。		
オフィスアワー	講義後に対応する。		
備考・履修条件	この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	中国語Ⅱ	担当教員名	干海
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	選択
授業の概要	「中国語Ⅰ」の続編として、「中国語Ⅰ」で学んだ発音、会話、読み書きについて、より発展的に学修する。コミュニケーション能力養成では、中国を旅行する場合の会話、来日中国人観光客との会話について練習する。また、来日中国人観光客が、病気等で日本の医療機関に受診する際の会話についても学ぶ。語学の学修と同時に、中国語の基盤となっている中国の社会や文化についても理解を深める。		
到達目標	中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	中国語の表現⑧	基本単語（2）と簡単な会話文①	
第2回	中国語の表現⑨	基本単語（3）と簡単な会話文②	
第3回	中国語の表現⑩	基本単語（4）と簡単な会話文③	
第4回	中国語の表現⑪	基本単語（5）と初診時の会話文	
第5回	中国語の表現⑫	基本単語（6）と健康診断時の例文	
第6回	中国語の表現⑬	基本単語（7）と臨床用の例文①	
第7回	中国語の表現⑭	基本単語（8）と臨床用の例文②	
第8回	中国語の表現⑮	基本単語（9）と臨床会話文①	
第9回	中国語の表現⑯	基本単語（10）と臨床会話文②	
第10回	中国語の表現⑰	基本単語（11）と臨床会話文③	
第11回	中国語の表現⑱	基本単語（12）と臨床会話文④	
第12回	中国語の表現⑲	基本単語（13）と臨床会話文⑤	
第13回	中国語の表現⑳	基本単語（14）と臨床会話文⑥	
第14回	中国語の表現㉑	基本単語（15）と臨床会話文⑦	
第15回	中国語の表現㉒	まとめ	
テキスト・参考書	テキスト プリント配布 参考図書 随時紹介する。		
学修方法			
評価方法	授業態度30%、筆記試験70%により評価する。		
オフィスアワー	講義後に対応する。		
備考・履修条件	この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	教育学概論	担当教員名	伊藤亜希子
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	教育の意味、役割、思想、方法、現状などについて広く概説する。これまでの学校生活の中での学習経験、部活動や習い事などの経験を振り返りながら、教育と学習の意味を再認識する。今後、専門的知識、技術を学ぶと同時に、理学療法、作業療法の専門家として指導する立場にあることを自覚し、意識を高める。そのために自分自身の学習にも教育の観点から、自己を客観的に捉える視点を学んでいく。		
到達目標	人間にとっての教育の意味を説明することができる。 教育学の基礎的な知識を身につけ、理解する。 現代の社会状況を踏まえ、教育の問題について考えを述べることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	教育学とは	授業内容の説明、自分自身の「教育」の体験	
第2回	教育の目的と役割	教育とは何か、なぜ必要か、教育の目的と役割	
第3回	教育の思想① 一学校の歴史と子ども観一	子ども観と教育観の変遷	
第4回	教育の思想② 一西洋の教育史一	西洋における教育哲学と教育観の変遷	
第5回	教育の思想③ 一日本の場合一	日本における教育観と学校教育の変遷	
第6回	教育の方法①	教育課程とカリキュラム	
第7回	教育の方法②	授業の実践と評価	
第8回	まとめ	1～7回目のまとめ	
第9回	教育と心理①	教育における心理とは	
第10回	教育と心理②	学習と思考	
第11回	教育と心理③	記憶と情報処理	
第12回	教育と心理④	伝達とコミュニケーション	
第13回	教育の現代的課題	子どもをめぐる問題、教育現場の現状	
第14回	国際化と日本語教育	グローバル化と日本語教育の現状	
第15回	まとめ	まとめと展望	
テキスト・参考書	教科書：プリント配布		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義ではプリントを配布する。適宜参考資料などを紹介する。		
評価方法	受講態度（30％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小レポートの成績（30％）、期末レポート成績（40％）		
オフィスアワー	講義後10分		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	現代の倫理	担当教員名	鷲見コト江
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	現代社会における様々な倫理の問題について、具体的なテーマを使って考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるのがよいのか、その示唆を与えてくれる考え方を学修し、看護の対象となる人の理解につなげることが科目の目的である。		
到達目標	倫理学あるいは道徳哲学は、特に価値と規範の基礎付けにかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法を学びます。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	倫理と道徳	倫理とは	
第2回	論理的判断	価値判断の方法	
第3回	現代の倫理的課題 I	感染症	
第4回	現代の倫理的課題 II	SDGsとは	
第5回	ホセ・ムヒカの倫理学	発展と幸福	
第6回	アリストテレスの倫理学 I	幸福とは	
第7回	アリストテレスの倫理学 II	善とは	
第8回	デカルトの哲学と道徳	学問と道徳	
第9回	デカルトの道徳	道徳の格率と徳	
第10回	カントの道徳論 I	不可知論と経験	
第11回	カントの道徳論 II	義務と幸福	
第12回	認知症と人権	アルツハイマー型認知症とは	
第13回	ユマニチュードの倫理観	看護と人権	
第14回	育児と人権	虐待とは	
第15回	医療倫理	医療倫理の歴史	
テキスト・参考書	テキスト 指定しない。 参考図書 講義中に指示します。		
学修方法			
評価方法	授業の参加状況10%、学習課題 4 0 %、最終試験またはレポート50%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 非常勤講師控室		
備考・履修条件	ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題についてよく考えること。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	現代の教育	担当教員名	伊藤亜希子
学年 開講時期	2 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	現代の教育現場はこれまでにない多様な状況にある。脱ゆとり、いじめ問題にとどまらず、グローバル社会に向けた多文化共生教育、環境教育など従来とは異なる知識も必要となっている。現代の社会状況を踏まえ、多様な教育のあり方について学び、その課題について考えていく。		
到達目標	現代の教育の多様なあり方を社会状況と合わせて理解することができる。 現代の教育に関する問題点を具体的に説明することができる。 社会状況を踏まえ、現代の教育について意見を述べるすることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス	授業内容の説明	
第2回	教育をめぐる時代の変化	教育の多様性と課題、概論	
第3回	教育現場の問題①いじめの問題	いじめ、スクールカースト、現場の教師の現状	
第4回	教育現場の問題②いじめをめぐる言説の変遷	いじめに対する捉え方、いじめの実態と言説	
第5回	教育現場の問題③校則	校則をめぐる諸問題とその背景	
第6回	ゆとり教育	ゆとり教育とは何だったのか	
第7回	日本の教育と受験制度	学びと暮らし、仕事とのつながり	
第8回	問われる学力	変動する時代に問われる学力とは	
第9回	特別支援教育	特別支援教育の動向、インクルーシブ教育	
第10回	まとめ	1～9回目のまとめ	
第11回	諸外国との比較①	欧米の教育制度	
第12回	諸外国との比較②	欧米の教育問題	
第13回	日本型の教育とは	これまでの日本の教育の問題点、教育文化の捉え直し	
第14回	生涯学習	生涯学習の必要性和地域社会との共生	
第15回	まとめと展望	今後の課題、展望	
テキスト・参考書	教科書：プリント配布		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義ではプリントを配布する。適宜参考資料などを紹介する。		
評価方法	受講態度（30％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小レポートの成績（30％）、期末レポート成績（40％）		
オフィスアワー	講義後10分		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	心理と行動	担当教員名	石井友明【実務該当教員】
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	心理学は人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また、行動科学はその心理学の手法を応用して現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることが目的である。鍵概念は、発達、動機づけ、学習、知的能力、パーソナリティ、社会性、不適応、障害等である。他にも評価や集団等の重要な概念も学ぶ。これらは、単なる知識だけでなく、自分自身の振り返り、将来の職場での自分の在り方のイメージ創り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。		
到達目標	社会生活に応用できる心理学の基本概念を学び、現場の事象を心理学的に捉え、人の理解や対応に活かす力を身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、心理の概念と歴史	講義の目的、目標、内容を理解する。	
第2回	学習のメカニズム	条件づけ、観察学習について理解する。	
第3回	記憶のメカニズム	記憶・知能・忘却について理解する。	
第4回	個人差（知的能力／パーソナリティ）	パーソナリティの定義について理解する。	
第5回	動機づけ	2つの動機付けとその理論について理解する。	
第6回	学習過程	教授学習モデルについて理解する。	
第7回	発達①	発達段階と発達課題について理解する。	
第8回	発達②	認知発達理論について理解する。	
第9回	発達③	社会性、道徳性の発達について理解する。	
第10回	適応①	不登校の問題について理解する。	
第11回	適応②	いじめのメカニズムとその防止について理解する。	
第12回	発達障害①	発達障害の諸相について理解する。	
第13回	発達障害②	アセスメントと支援方法について理解する。	
第14回	集団	集団は個人にどのような影響を与えるかについて理解する。	
第15回	まとめ	全体のまとめを行う。	
テキスト・参考書	プリントを配布する。		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の参加状況10%、レポート20%、最終試験70%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	健康と生活	担当教員名	鈴木啓介【実務該当教員】・藤井稚也【実務 該当教員】・廣田 薫
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	健康と生活との関係について学修する。基本的な生活習慣としては、食生活、睡眠、嗜好、社会参加などがあげられるが、様々な生活習慣と健康の関係について学修する。これらの生活習慣は健康に直接大きく関連しているのみでなく、特に食生活を例にとると、楽しさといった生活の質にも大きく関係する要素である。また、高齢者では生きがいなども密接な関係があることが明らかになっている。リハビリテーション職として必須となる、健康と生活の関係について、学生による調査・発表・討議を中心に授業を進めていく。		
到達目標	① 自らの心身の健康を保持するための基本的な生活を理解し、豊かな日常生活を送るために必要な生活習慣が理解できる。 ② 日常生活において起こるさまざまな問題に対して、対処できるライフスキルについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、健康と生活総論	新聞などで健康、医療福祉についての話題を閲覧しておくこと	
第2回	ライフスタイルと健康①	食生活、飲酒、喫煙	
第3回	ライフスタイルと健康②	休養、睡眠	
第4回	ライフスタイルと健康③	運動、その他の身体活動	
第5回	生活習慣病の科学①	肥満の発症メカニズムとその予防、改善方法	
第6回	生活習慣病の科学②	糖尿病、脂質異常症の発症メカニズムと予防方法	
第7回	生活習慣病の科学③	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムと改善方法	
第8回	生活習慣病の科学④	骨粗鬆症の発症メカニズムと改善方法	
第9回	加齢と健康の科学①	サルコペニア、栄養摂取	
第10回	加齢と健康の科学②	ロコモティブシンドローム、フレイルの予防	
第11回	健康増進のための運動の科学①	筋力トレーニング	
第12回	健康増進のための運動の科学②	持久性トレーニング	
第13回	安全に生活をしていくための方法①	運動・活動(健康習慣)	
第14回	安全に生活をしていくための方法②	仕事	
第15回	安全に生活していくための方法③	地域での生活と活動	
テキスト・参考書	テキスト：特に指定しない。毎回資料を配布する。 参考図書：健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病 第2版 日本医事新報社		
学修方法	スライドによる講義を主として、時にはディスカッション形式を取り入れて学生間の意見交換を交えるなどして進めていく。		
評価方法	定期試験（100％）		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	岐阜県の歴史と文化	担当教員名	池田雅志【実務該当教員】
学年 開講時期	2 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	文献や学外のフィールド調査等を通じて、岐阜県の歴史遺産や文化物、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や地理、生活環境を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。授業ではアクティブラーニング的手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表等により授業を進める。岐阜県の風土・歴史・社会文化について深く学ぶことで、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。		
到達目標	2回の岐阜市のフィールド調査をもとに郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境、生活を探求することで岐阜県の風土や観光について深く学び、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	岐阜市の歴史について学ぶ	岐阜市の歴史や継承される祭りや風習について学ぶ。	
第2回	岐阜市 金華山周辺地域のフィールド調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。	
第3回	金華山周辺地域のフィールド調査 ①	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ①	
第4回	金華山周辺地域のフィールド調査 ②	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ②	
第5回	金華山周辺地域のフィールド調査 ③	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ③	
第6回	金華山周辺地域のフィールド調査 ④	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ④	
第7回	金華山周辺地域のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。	
第8回	金華山周辺地域のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。	
第9回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド 調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。	
第10回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①	
第11回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②	
第12回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ③	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ③	
第13回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④	
第14回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。	
第15回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。	
テキスト・参考書	テキスト：無し（随時、プリント等を配布する） 参考図書：伊藤安男著 地図で読む岐阜 飛山濃水の風土 古今書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		

評価方法	発表10%・レポート90%により評価する。 S (100～90点)：フィールド調査の内容のレポートがしっかりと出来て、さらにフィールド調査の準備・結果のまとめ・発表会に積極的に参加できた。 A (89～80点)：しっかりとした内容のフィールド調査レポートが出来ていた。 B (79～70点)：両方のフィールド調査レポート提出ができている。 C (69～60点)：フィールド調査のレポートが一つしか出ていない D (60点未満)：2つのフィールド調査に出席していない
オフィスアワー	月曜日 16:20～17:20 研究室
備考・履修条件	グループごとにテーマを決めてフィールド調査を行うことにより、岐阜地域の風土や生活について学ぶ。岐阜県以外の出身者は、岐阜県の歴史や地域に関する本を読んでおくとよい。

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	自己管理と社会規範	担当教員名	高山 務
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	選択
授業の概要	自己管理とは、自らををどう律するか、自らの管理・コントロールすることである。リハビリテーション職には、自己管理能力と共に、リハビリテーションの対象となる人の自己管理能力を高めるための能力をも期待されている。自己管理をするにあたって必要となる要素には、感情のコントロール、意欲やモチベーションを保つこと、目的意識を持つこと 時間管理や体調の管理などがあり、それらをどのように保つのかを、社会規範との関連の中で具体的に学修する。社会規範の定義、成り立ち等の基礎知識を学び、社会のルールやモラルについて考察する。自己管理の基礎である時間、体調の管理方法を学び、大学生生活のモチベーションや学びのスキルを維持し、向上させることで行動変容が導かれるよう、グループワークを中心として、他者との協働や多様な価値観の尊重について学ぶ。		
到達目標	日々の生活全般で、様々な場面における善悪や正誤を判断する基準としての社会規範やモラルの成り立ち、機能について理解し、人間社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について学習する。また、自分が置かれている立場において、人々との共存に必要な社会規範の理解を深めるとともに、具体的な自己管理のあり方を考える。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	自己管理していく力を養う	なぜ自己管理をすることが必要なのかを学ぶ。自己分析と、現時点での自己管理能力について知る。(プロフィールと自己紹介含む)	
第2回	社会規範の種類を知る	社会規範の定義と種類を知る。他者の知識や意見を聞きながら視野を広げる。	
第3回	自己管理能力の向上について	事例をもとに他者と意見交換することで自らの課題等に気づく。	
第4回	自己モニタリングスキルについて	自己モニタリングとは何か。その基礎を学ぶ。経験したことを他者と意見交換する。	
第5回	自己効力感と自己調整について	自己効力感の基礎と自己調整学習について学ぶ。	
第6回	人間の三大欲求と自己管理能力について	三大欲求について学び、自己管理能力の向上を図るための方策をグループワークを通して学ぶ。	
第7回	インクルーシブ教育システムについて	インクルーシブとは何か、障害児者の理解とPT、OTの使命について理解する。障害者と関わった経験を発表したり意見交換をしたりする。	
第8回	コミュニケーション能力を高める1	新しいグルーピングを編成して、テーマに基づく協議を進める。	
第9回	コミュニケーション能力を高める2	新しいグルーピングを編成して、テーマに基づく協議を進める。	
第10回	価値観について	多様な価値観を知り、尊重することの大切さを学ぶ。	
第11回	成人年齢について	令和4月1日付けで施行された法令を理解、各グループで議論する。	
第12回	アンガーマネージメントについて	アンガーマネージメントを知り、自己管理能力を高める方法について学ぶ。	
第13回	各事例によるGW発表とディベート1	グループごとに成果を発表する。	
第14回	各事例によるGW発表とディベート2	グループごとに成果を発表する。	
第15回	各事例によるGW発表とディベート3	グループごとに成果を発表する。(本講義のまとめ)	
テキスト・参考書	参考資料：自己調整学習の実践、シャク,ディル.秋場大輔 訳、北大路書房 2007年、(3672円)		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	グループワーク課題10%、レポート30%、最終筆記試験60%により評価する。		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	リハビリテーション学の学習行動能力の向上には、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう予習と復習が大切である。この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示された内容の学修）が必要である。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	人間関係論	担当教員名	市川季夫
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	必修/選択	必修
授業の概要	人間関係の意義、社会的相互作用について学ぶ。人間の発達・成長・成熟に関与している人間関係についての基礎的理論を学ぶ。人間を人との関係で生き、成長する存在として捉え、人間理解・対人関係の持ち方、人間関係を創りあげる能力を養う。人間関係を円滑に保つ技法について学び、自己理解と良好な対人関係について理解を深め、リハビリテーション職になるための土台をつくる。グループディスカッションや演習などを取り入れながら講義を展開する。課題に対するフィードバック方法/毎回振り返り表を記入しコメントを入れる。必要に応じ講義中にフィードバックを行う。		
到達目標	①人間を自然的、社会的な存在として理解する。②他者と自己の関係を学ぶ。③人間関係を築く技法を学ぶ。④看護場面における人間関係を学ぶ。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	人間関係の中の自己と他者	保健医療の専門職として、人間関係についての概念や理論、スキルを学ぶ意味を考える。	
第2回	対人関係と役割	人間関係の成立について学び、その進展と維持、さらに崩壊について学ぶ。	
第3回	態度と対人行動	人間の行動に影響する要因。人の攻撃性の理由と抑制について学ぶ。	
第4回	集団と個人	集団が個人の意思決定や行動に与える影響について学ぶ。	
第5回	コミュニケーション	人間関係を形成するための基本的手段であるコミュニケーションについて学ぶ。	
第6回	カウンセリングと心理療法	カウンセリングや心理療法の保健医療への応用について学ぶ。	
第7回	コーチング	コーチングでは、理論とスキルを理解し、対人援助への応用を学ぶ。	
第8回	アサーティブなコミュニケーション	アサーティブコミュニケーションでは、理論とスキルを理解し、対人援助への応用を学ぶ。	
第9回	保健医療チームにおける人間関係	保健医療におけるチームの特性を学ぶ・チーム医療、多職種連携の意義を理解する。	
第10回	患者を支える人間関係	患者と医療者の関係を理解する。両者の相互作用を評価する方法を学ぶ。	
第11回	家族を含めた人間関係	患者を含めた家族も、医療の対象である。近代家族とそのゆらぎを理解する。	
第12回	地域をつくる人間関係	様々な利害関係を持つ人間集団である地域の力を評価し、障碍等の有無にかかわらず、住み慣れた地域で暮らせる条件を考える。	
第13回	「きく」技術 ①	ロールプレイ 「家族が非協力的な事例」事例紹介・事例理解	
第14回	「きく」技術 ②	ロールプレイ 「学生によるプレイ」「講師によるプレイ」	
第15回	まとめ	見通しの持てる折り合いのつけ方	
テキスト・参考書	教科書：石川 ひろみ著者代表「人間関係論」 医学書院 2018第3版 参考書：		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントも使う。		
評価方法	定期試験 80%、グループワーク・演習20%		
オフィスアワー			
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	國澤 英雄【実務該当教員】
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医療のあらゆる局面で最も大事なものはコミュニケーション能力である。本講座では様々な医療の現場で生起するコミュニケーション場面を取り上げ、医療従事者が患者・家族、他の医療従事者とのようにコミュニケーションすべきかの理論的に、かつ事例を示しながら解りやすく解説する。そして川越胃腸病院を取り上げ、コミュニケーションと心の交流について解説する。さらに本講座では、講義だけでなくグループ討議、レポート作成を適宜織り込み、より深い理解を得て、実際の医療現場で役立つ人材の育成を図る。		
到達目標	[1]ヘルス・コミュニケーションの全体像と関連要因を理解し、コミュニケーションに反映できる [2]医療者と患者・家族、医療者と医療者、患者と家族のコミュニケーションを理解し適切に対応できる [3]様々な場（面接、小集団、対立）のコミュニケーションの理論と方法を理解し、適切に対応できる [4]コミュニケーションの根底は、患者を思う心、信頼関係にあることを理解し患者満足の本質を知る		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ヘルス・コミュニケーション序論	コミュニケーションの定義、コミュニケーション・モデル、健康関連モデル	
第2回	医療のコミュニケーション関連要因	共感・支配・信頼・自己開示・確認・要約	
第3回	医療の人間関係のコミュニケーション	医療者と患者・家族の関係、医療者と医療者の関係、患者と家族の関係	
第4回	医療の場での非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションの重要性・特性・種類	
第5回	医療の場における面接	面接の定義、面接の形式、面接の段階、面接でのコミュニケーション	
第6回	医療における小集団コミュニケーション	小集団コミュニケーションの定義、医療集団の種類、小集団の構成要素、小集団の段階	
第7回	医療の場における対立とコミュニケーション	対立の定義・種類、対立解決へのコミュニケーション	
第8回	医療のコミュニケーション事例	川越胃腸病院を取り上げ、医療者と患者・医療者と医療者の心の交流とコミュニケーションを考察する	
テキスト・参考書	グレクサにて配信する		
学修方法	各テーマについての宿題を出すので、それを必ず提出すること。		
評価方法	講義に出席率（40％）、レポート提出率・内容評価（60％）		
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 総合科学科目		
授業科目名	健康と運動（体育）	担当教員名	青崎浩士、石塚和重【実務該当教員】
学年 開講時期	1 年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	体を動かすことは、人間にとって本能的欲求であり、心と体を快適・爽快にし、身体機能の維持向上や代謝、内分泌、自律神経などの恒常性ホメオスタシスを正常に保つために必要不可欠な機能維持方法である。超高齢社会にあっては、毎日無理なく、バランス良く正しい方法で運動を生活に取り入れることが重要であり、本科目ではスポーツ医・科学と健康についての基礎知識を学習するとともに、ラジオ体操やスポーツ等の実践を通じて、生涯に亘って健康の保持増進を図る方法を学ぶ。		
到達目標	1 スポーツ医・科学と健康について理解する。 2 ラジオ体操やスポーツの実践及びトレーニングのための基礎知識を習得し、健康の保持増進を図る。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス	本講義の目的・意義及び授業展開について	
第2回	運動が生体に与える影響	運動のメリットおよびデメリット	
第3回	運動とエネルギー代謝	無酸素性および有酸素性エネルギー供給機構	
第4回	運動と運動器系	運動に伴う骨の増強や筋力の増強	
第5回	運動と呼吸・循環①	呼吸器系と酸素摂取量	
第6回	運動と呼吸・循環②	循環器系にかかる負荷と循環器系の適応	
第7回	運動とホルモン	運動により変化するホルモン	
第8回	障害者スポーツ①	ボッチャ	
第9回	障害者スポーツ②	ボッチャ	
第10回	障害者スポーツ③	ボッチャ	
第11回	障害者スポーツ④	ボッチャ	
第12回	障害者スポーツ⑤	ボッチャ	
第13回	運動の実践①	ラジオ体操の歴史と実践	
第14回	運動の実践②	ストレッチング，コンディショニング	
第15回	運動の実践③	ロコモティブシンドローム	
テキスト・参考書	別途指示する。		
学修方法	講義を主体とし、実技演習については個別対応とする。		
評価方法	出席・授業態度50％、各講義ごとに提出してもらうレポート50％の総合評価による。		
オフィスアワー	授業後 15分間 研究室		
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	解剖学	担当教員名	高井 良招【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	人体を構成する運動器（骨・筋・靱帯など）、脈管、内臓、神経、感覚器系、及び組織学や発生学について学ぶ。器官を形成する組織と個体発生、系統発生について理解する。個々の器官・器官系について基本的な構造と機能、及びそれらの器官系から成り立っている人体の構造と機能を理解する。また医学における解剖学の役割・解剖学の歴史について学び、各臓器（呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器の諸器官系など）の機能について理解を深めるための講義を展開する。		
到達目標	1)各器官の形態と機能の概略を説明できる。 2)運動器、神経系、各臓器の構造と機能について理解できる。 3)医療の学習、臨床で必要となる解剖学用語を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	概説	解剖学とは、器官の発生、組織	
第2回	骨学① 形態	頭蓋の骨、顔面の骨	
第3回	骨学② 形態	体幹の骨、脊柱と椎間、胸郭の骨	
第4回	骨学③ 形態	上肢帯の骨、自由上肢骨	
第5回	骨学④ 形態	下肢帯の骨、自由下肢骨	
第6回	関節① 形態と機能	頭蓋と脊柱の関節とそれ等の靱帯	
第7回	関節② 形態と機能	上肢の関節（上肢帯、肩、肘、手）とそれ等の靱帯	
第8回	関節③ 形態と機能	下肢の関節（下肢帯、股、膝、足）とそれ等の靱帯	
第9回	関節④ 形態と機能	骨盤（腸骨、恥骨、坐骨、仙骨）とそれ等の靱帯	
第10回	筋学① 形と分類と人体部位別の筋	筋の形状分類、頭頸部の筋の形態と機能的特徴	
第11回	筋学② 人体部位別の筋	体幹、胸腹部の筋の形態と機能的特徴	
第12回	筋学③ 形態と機能	上肢（上肢帯、肩、肘、手）の筋の形態と機能的特徴	
第13回	筋学④ 形態と機能	下肢（下肢帯、股、膝、足）の筋の形態と機能的特徴	
第14回	中枢神経① 脳の構造	脳の血管、大脳、小脳の構造と機能、皮質の細胞層	
第15回	中枢神経② 脳の構造	間脳、大脳基底核、大脳辺縁系の構造と機能	
第16回	中枢神経③ 脳の構造	中脳、橋、延髄の構造と機能	
第17回	中枢神経④ 伝導路と神経核	求心性・遠心性神経路	
第18回	脳神経 運動・知覚・自律神経	神経核・神経路・皮質領域とその機能	
第19回	脊髄神経① 頸神経と頸神経叢	知覚性と運動性、副交感性と交感性の神経とその分布	
第20回	脊髄神経② 頸神経と腕神経叢	鎖骨上・下部の神経で胸・肩部・上肢に分布する神経	
第21回	脊髄神経③ 胸神経と腰神経・腰神経叢	肋間神経、神経叢の構成と腹部・大腿に分布する神経	
第22回	脊髄神経④ 仙骨神経と仙骨神経叢	神経叢の構成と大腿・下腿・足に分布する神経	
第23回	自律神経① 交感神経と幹神経節	脊髄側角の細胞と白・灰白交通枝、その機能	

第24回	自律神経② 副交感神経	頭仙系と脊髄副交感系、その機能
第25回	内臓学① 呼吸器	呼吸機能に関する臓器の形態とその機能
第26回	内臓学② 循環器	心臓と脈管系の形態とその機能
第27回	内臓学③ 消化器	消化機能に関する臓器の形態とその機能
第28回	内臓学④ 泌尿器・性器	尿生成・排泄に関する臓器の形態とその機能、種族の継続
第29回	感覚器とその神経① 形態と機能	嗅覚・味覚・視覚器の構造とそれ等の神経と機能
第30回	感覚器とその神経② 形態と機能	聴覚・体平衡器の構造とそれ等の神経と機能
テキスト・参考書	教科書①：解剖学 第1判 出版社：羊土社 ISBN：978-4758102346 価格：6,160 円税込み 教科書②：プロメテウス解剖学 コア アトラス 第3版 出版社：医学書院 ISBN：978-4260035354 価格：10,450 円税込み	
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）	
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室	
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	解剖学演習	担当教員名	高井 良招【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	各種標本等の観察によって解剖学講義で学んだ内容の理解を確実にする。組織標本の顕微鏡観察により、組織・器官を構成している各細胞の役割について理解する。ヒト脊椎動物の基本構造を学び、組織・器官が個体を構成する様子を観察する。さらに、骨や靱帯等の交連標本・分離標本を観察・スケッチすることで、その詳細構造を理解する。肉眼解剖学の基礎となる身体部位、体表面観察を行った後、人体解剖見学によって行い更に理解を深める。		
到達目標	1)筋の付着部となる部分の骨の構造について説明できる。 2)関節の構造と靱帯について説明できる。 3)脳・内臓器を容れる形態構造について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	組織標本の観察	組織標本を顕微鏡で観察する。	
第2回	骨① 形態と骨交連の観察 頭蓋	頭蓋骨について交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。	
第3回	骨② 形態と骨交連の観察 顔面	顔面骨について交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。	
第4回	骨③ 形態と骨交連の観察 椎骨	頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎について分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。	
第5回	骨④ 形態と骨交連の観察 脊柱と胸郭	脊柱と胸郭を分離・交連の両標本で観察し理解する。	
第6回	骨⑤ 形態と骨交連の観察 上肢	上肢帯、自由上肢骨、上肢関節複合体の基本について、分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。	
第7回	骨⑥ 形態と骨交連の観察 下肢	下肢帯、自由下肢骨、下肢関節複合体の基本について、分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。	
第8回	骨⑦ 骨盤の構造 骨の連結	腸骨・恥骨・坐骨について、交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。	
第9回	関節① 関節の機能と靱帯 上肢帯	交連標本を動かし、上肢帯、自由上肢運動として関節複合体の構造と靱帯を理解する。	
第10回	関節② 関節の機能と靱帯 下肢帯	交連標本を動かし、下肢帯、自由下肢運動として関節複合体の構造と靱帯を理解する。	
第11回	骨盤と股関節の機能	体幹の支持と歩行運動として関節複合体の構造を理解する。	
第12回	「入れ物」としての「骨の籠」	交連標本を利用し、脳・内臓器を容れる形態構造を理解する。	
第13回	実習ガイダンス	実習日程、実習着、実習態度、注意事項を確認する。	
第14回	上下肢の解剖見学	上下肢の筋、関節、神経の構造観察。	
第15回	体幹、頭頸部の解剖見学	脳、脊髄の外側面の構造観察。胸腔・腹腔内臓器の位置関係と外観の構造観察。	
テキスト・参考書	教科書①：解剖学 第1判 出版社：羊土社 ISBN：978-4758102346 価格：6,160 円税込み 教科書②：プロメテウス解剖学 コア アトラス 第3版 出版社：医学書院 ISBN：978-4260035354 価格：10,450 円税込み		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	機能解剖学	担当教員名	高井 良招【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	四肢、体幹の骨、筋、神経の役割について理解し、理学療法、作業療法の実践で役立てることができることを目的とする。主に四肢、体幹の骨、筋、神経について機能解剖学の観点より講義する。運動時の主要な力の発現器としての骨関節、筋神経の個々についての理解を深める。関節運動では、筋肉から生み出された力を「ベクトル」と「トルク」の発生として捉え、さらに「力の合成、分解」関係して結び付け、人体の運動と力学的構造を理解する。		
到達目標	①生体運動器官の構造形態とその力学的機能が説明できる。 ②「ベクトル」と「トルク」の発生機構と「力の合成、分解」について説明できる。 ③体幹、上肢、下肢の運動軸について理解し、把握、歩行時の軸変化の構造について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	概説	機能解剖学とは何か、その意味するもの	
第2回	協議の運動学	並進、回転と骨運動、関節の構造と包内運動	
第3回	運動力学① 筋骨格系と力	「力」の発生と「ベクトル、運動トルク」の解釈	
第4回	運動力学② 筋と関節の相互作用	3種類の「てこ」、回転軸と「トルク」	
第5回	骨と関節① 上肢関節複合体	形態と機能とその統合運動	
第6回	骨と関節② 下肢関節複合体	形態と機能とその統合運動	
第7回	脊柱と頭蓋の関節複合体	脊柱と頭蓋の相互運動機能	
第8回	筋の形態① 収縮機能と支配神経	収縮機構と支配神経の終末装置と筋の関係	
第9回	筋の形態② 運動と「トルク」	筋の「力」、「等尺性筋力ー内的トルク」、筋の疲労	
第10回	力源としての筋① 張力曲線	自動的・他動的な「求心性」「遠心性」「等尺性」な力	
第11回	力源としての筋② 運動	「力」と「速度」の関係とその解釈	
第12回	生体力学	自由身体ダイアグラム、「力」の合成、分析、作図	
第13回	身体支持① 頭蓋の支持と軸としての脊柱	頭蓋支持の柱と頭部の運動、体幹の軸と運動軸の柱の構造	
第14回	身体支持② 物を握む上肢	上肢の運動軸と把握の支え機能の軸変化	
第15回	身体支持③ 歩行機能の下肢	体重移動と歩行の軸変化	
テキスト・参考書	教科書：運動学 第1判 出版社：羊土社 ISBN：978-4758102445 価格：4,400円税込み 参考書：プロメテウス解剖学 コア アトラス 第3版 出版社：医学書院 ISBN：978-4260035354 価格：10,450円税込み		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部【実務該当教員】		リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科	
授業科目名	機能解剖学演習	担当教員名	高井 良招【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	解剖学で学ぶ知識をさらに深め発展させて、骨格系、筋肉系、神経系など各構成要素と運動制御の関係を学び機能解剖学として体系づける。具体的には、分離標本を用いて全身の骨格の組み立てを行い全体像の理解をした上で、交連標本を用いた観察と実際の表面解剖を通して、骨、筋肉、神経の触診を演出する。また、脊柱・胸郭・上肢帯・下肢帯の連結と機能について学ぶ。臨床上重要な部分については、詳細な解剖学的理解が得られるよう教授する。		
到達目標	①分離標本を用いて、全身骨格を組み立てられるようになる。 ②各関節の形態と機能と運動制御について理解できる。 ③脊柱・胸郭・上肢帯・下肢帯の連結の形態と機能について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	骨格概要	分離骨標本を用いて、全身の骨格を組み立て全体像を理解する	
第2回	上肢の関節複合体①	肩関節の形態と機能、運動制御	
第3回	上肢の関節複合体②	肘関節、前腕の形態と機能、運動制御	
第4回	上肢の関節複合体③	手根と手の関節の形態と機能、運動制御	
第5回	下肢の関節複合体①	股関節の形態と機能、運動制御	
第6回	下肢の関節複合体②	膝関節の形態と機能、運動制御	
第7回	下肢の関節複合体③	足根と足の関節の形態と機能、運動制御	
第8回	体軸骨格の形態	脊柱の関節形態と機能	
第9回	胸郭骨格の形態	胸骨・肋骨・胸椎の関節形態と機能	
第10回	上肢帯	連結の形態と関節の構造と機能	
第11回	下肢帯	連結の形態と関節の構造と機能	
第12回	全身運動	四肢並びに体幹を軸とした全身運動	
第13回	神経① 上肢帯・自由上肢	交連標本を用いて神経の走行を確認する	
第14回	神経② 下肢帯・自由下肢	交連標本を用いて神経の走行を確認する	
第15回	脈管	交連標本を用いて上下肢・脳の脈管の走行を確認する	
テキスト・参考書	教科書：運動学 第1判 出版社：羊土社 ISBN：978-4758102445 価格：4,400円税込み 参考書：金子丑之助著 日本人体解剖学上・下巻 改訂20版 南山堂 教科書は1年次、機能解剖学にて教科書として購入済みであり、参考書は1年次、解剖学にて教科書として購入済みです。いずれも、新たに購入する必要はありません。		
学修方法			
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学 I	担当教員名	太田 美智男【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生理学は人体の機能、つまり働きと役割を学ぶ分野であり、解剖学や生化学と並んで人体のしくみを理解する上で最も基礎的な知識となる。人体そのものを1つのシステムとして考え、臓器固有の機能、動物特有の神経回路や感覚のしくみ、さらに最新の治験に基づく細胞レベルや分子レベルから見た生理機能など、非常に広範囲な領域を異なった観点から学修する。生理学をより良く理解するため、生理現象の規範となっている物理化学的な基礎知識についてもこの中で講義する。		
到達目標	① 細胞の機能を説明できる。 ② 刺激の受容、興奮伝導、筋収縮の流れについて説明できる。 ③ 自律神経の構造と機能を説明できる。 ④ 血液、心臓、肺、腎臓の機能、ホルモンの働きを説明できる。 ⑤ 内分泌に関わる部位とホルモンについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生体の構造、細胞	生体の恒常性、刺激と興奮、刺激と適応、細胞の構成元素、細胞の構造と機能およびその調節	
第2回	神経生理①	感覚神経と運動神経の構造と機能、脳および神経系諸器官の基本的構造と要素	
第3回	神経生理②	静止膜電位と活動電位、興奮伝導、シナプスの機能と分類、シナプスにおける伝達メカニズム、ニューロン回路の種類	
第4回	自律神経系	自律神経の構成と作用および受容体、摂食・飲水の調節、概日リズム、自律神経反射	
第5回	運動生理①	運動ニューロン、脊髄の構造、神経筋結合部の構造と機能、骨格筋・平滑筋・心筋の機能、筋の収縮機構	
第6回	運動生理②	脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質の構造と機能、反射、随意運動と不随意運動、運動の調節と制御	
第7回	感覚生理①	体性感覚・特殊感覚・内臓感覚、刺激から認知に至る神経機構、末梢の感覚受容機構と伝達メカニズム、1次体性感覚野における処理機構、体性感覚の統合機構、痛覚の神経機構	
第8回	感覚生理②（特殊感覚）	視覚器の構造と伝導路、眼の屈折力と調整作用、暗順応、視覚物質と光受容、嗅覚と味覚の受容器、聴覚器の構造、音の伝導と伝導路、平衡感覚器の構造と機能、前庭反射の神経機構	
第9回	脳と認知・行動	大脳皮質の機能局在、連合野の機能、大脳辺縁系と視床下部の機能、運動と感覚の統合機構、情動・学習・記憶をつかさどる脳の部位と記憶のメカニズム	
第10回	脳波と睡眠、体温調節	脳波の分類と意識水準、脳波の睡眠段階区分と睡眠の生理学的変化、覚醒と睡眠の調節、サーカディアンリズム、体温調節	
第11回	血液・体液と機能	血漿成分、血液細胞の働き、血液凝固の仕組みと凝固異常、鉄代謝、浸透圧	
第12回	心臓の働きと血液循環	心臓の構造、興奮伝達と心筋収縮、自律神経系による調節、心電図、血液循環と調節	
第13回	呼吸と肺の働き	肺の構造、肺循環とガス交換、血液ガスの運搬、呼吸の調節	
第14回	腎機能と排尿	腎臓の構造と機能、糸球体濾過と尿細管における再吸収、排尿とその障害	
第15回	消化と吸収	消化管の構造と食物の輸送、嚥下機能、胃、小腸、大腸における各栄養素の消化吸收機能、排便	
テキスト・参考書	テキスト：佐々木 誠一編集 生理学要点整理ノート改訂第2版 羊土社 参考書：大地陸男著 生理学テキスト第8版 文光堂 下正宗他編集 コアテキストⅠ人体の構造と機能第2版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	金曜日 12:10～13:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学Ⅱ	担当教員名	太田 美智男【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生理学Ⅰの総論講義から継続して、中枢神経系、末梢神経系、自律神経系について疾患を例にあげてそれぞれの機能を復習しながら具体的にイメージできるように講義する。さらに人体の各機能について総論の講義を発展、具体化して、それぞれの関連する臓器の働きを基に各種疾患の例を挙げて説明する。すなわち、血液の機能とその障害、循環系の機能とその障害による疾患、呼吸器の機能と障害、消化器の生理機能とその障害による疾患、尿路系の機能と障害、代謝系の概要とその障害による疾患、各種ホルモンの働きとその障害による疾患および生殖機能との関連、神経系ならびに複数の臓器の機能が関わる血圧の調節、血液の酸／塩基平衡の調節ならびに電解質バランス、生体防御機構などについて、国家試験問題などもとりあげて理解を深めるように講義する。		
到達目標	①神経系の働きとその障害による症状を説明できる。 ②各器官、臓器の働きとその障害による症状の病態生理を説明できる。 ③複数の臓器の機能およびホルモンが関わる生体の調節、例えば血圧、血液の酸塩基平衡、電解質バランスなどについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	中枢神経系の働きとその障害	体性神経の神経路の確認、脊髄の機能と障害、脊髄反射、脳幹の構造・主要機能と障害、大脳皮質の機能局在の確認とその障害	
第2回	末梢神経系の働きとその障害	脳神経のそれぞれの機能：眼球運動、味覚、聴覚・平衡覚、交感神経・副交感神経機能などと機能障害、体性神経系：感覚機能、運動機能と障害	
第3回	自律神経系の主要な機能とその障害	交感神経系の機能、副交感神経系の機能、関与する神経伝達物質、循環系および呼吸に対する自律神経の作用と障害による病態生理、排泄における神経系の機能と障害	
第4回	心機能とその異常	心臓の拍出機能と心不全、心筋の特徴と疾患、心臓の刺激伝導系とその異常・不整脈	
第5回	末梢血管の機能と物質交換、血圧の調節	動脈の粥状硬化による閉塞・梗塞、微小循環、血管透過性、循環の調節物質、心・血管系への自律神経の作用による血圧調節、	
第6回	肺の機能と障害	肺機能の測定、肺の拘束性障害および閉塞性障害、肺機能の低下、異常呼吸	
第7回	栄養とエネルギー代謝	エネルギー代謝・糖新生と調節・糖尿病、アミノ酸代謝と尿素生成・排出、脂質代謝、核酸代謝、運動と体力	
第8回	エネルギー代謝における肝臓、膵臓の機能	肝臓の代謝機能とその異常、胆汁の作用と分泌障害による病態、膵臓の代謝における作用と障害	
第9回	腎臓の機能と障害	糸球体濾過機能と障害、慢性腎不全による機能障害、腎性高血圧、電解質および水の再吸収と排泄、ホルモン・RAA系による血圧の液性調節の仕組み、降圧剤の作用	
第10回	血液の酸塩基平衡の調節と障害	肺のガス交換と呼吸機能異常による血液pHへの影響、腎臓尿細管における炭酸水素イオンの吸収・排出による血液pHの維持と変動、ケトアシドーシス	
第11回	ホメオスターシス、視床下部、下垂体ホルモンの作用と分泌の調節	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモンの働きと調節、ネガティブ・フィードバック、下垂体後葉ホルモンの作用	
第12回	甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎髄質ホルモンの作用	甲状腺ホルモンの機能と分泌異常、副腎皮質ホルモンのそれぞれの機能と分泌異常、副甲状腺ホルモンによるカルシウム代謝の制御、副腎髄質ホルモンの作用	
第13回	プロラクチン、ゴナドトロピンと性ホルモンの機能、生殖	プロラクチン、ゴナドトロピンの作用、性ホルモンの生理作用と性周期、性ホルモン分泌異常症の病態、男性・女性の生殖機能、妊娠と分娩	
第14回	エイコサノイド（プロスタグランジン類）の作用	プロスタグランジン類の生合成とそれぞれの作用、COX阻害剤	

第15回	生体防御機構	侵襲に対する生体反応、炎症、免疫反応の生理的意義と過剰反応による疾患の病態、炎症性サイトカインの作用
テキスト・参考書	教科書：佐々木 誠一編集 生理学要点整理ノート改訂第2版 羊土社 参考書：下正宗他編集 コアテキストⅠ 人体の構造と機能第2版 医学書院	
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）	
オフィスアワー	月曜日 16:10～16:30 研究室、金曜日 12:10～12:50 研究室	
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学演習	担当教員名	太田 美智男【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生体の機能とその発現メカニズムを学ぶため、我々自身の体を材料に、ヒトの反射・心電図・血圧・呼吸・感覚等に関する演習を行う。生理学Ⅰ・Ⅱで得た知識をより深く理解するため、演習を通し、生体に生じる現象を観察し、メカニズムを考え仮説について検証を行う。また、基本的な測定法・記録法・データ処理の仕方・結果のまとめ方を学ぶほか、ヒトを材料に使うときの倫理等にも留意し、今後につながる実験者としての態度を養うことをめざす。		
到達目標	①各演習が生理機能の何を学習するために行っているか、説明することができる。 ②記録したデータを集計し、自身の考えを述べることができる。 ③演習内容と臨床との関連性を理解することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	身体の推定と実測（基礎代謝）、ホメオスタシス（体温）①	身体状況に関する知識の確認と体温計測・身体計測を行いホメオスタシスと基礎代謝について理解する	
第2回	身体の推定と実測（基礎代謝）、ホメオスタシス（体温）②		
第3回	自律神経①	交感神経と副交感神経機構について理解する 暗所での対光反射、視覚刺激による瞳孔拡大、恐怖刺激による立毛筋の収縮、発汗の観察を行う	
第4回	自律神経②		
第5回	体性感覚①	重量感覚を通じてウェーバーの法則、フェフィナーの法則、ステープンスの法則を理解する 2点識別覚の測定を行い、弁別閾値の分布・違い、弁別能の順位を調べる。	
第6回	体性感覚②		
第7回	聴覚と平衡感覚	音の伝導に関する観察を行う 視覚を制限することによる平衡感覚の変化、半規管への刺激と反応の変化を観察する	
第8回	聴覚と平衡感覚		
第9回	視覚と嗅覚	視野、色覚、マリオットの盲点について演習する 嗅覚刺激下での心理的変化について演習する	
第10回	視覚と嗅覚		
第11回	呼吸①	正常な呼吸機能の確認と肺機能検査を行い、スパイロメトリーについて理解する	
第12回	呼吸②		
第13回	心臓と循環①	安静時と姿勢変換時、運動前後、バルサルバ試験時の血圧、心拍数、動脈血酸素分圧の変動について理解する 心電計を用いて、安静時と姿勢変換時、運動前後の変動について理解する	
第14回	心臓と循環②		
第15回	心臓と循環③		
テキスト・参考書	教科書：杉晴夫著 コメディカルのための生理学実習ノート改訂第2版 南江堂 参考書：大橋敦子監修 生理学実習NAVI第2版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テスト・提出物の成績（100％）		
オフィスアワー	月曜日 12:10～12:40、金曜日 12:10～12:40 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	運動学Ⅰ	担当教員名	酒向 俊治【実務該当教員】・小澤 敏夫【実務該当教員】・原 和子【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動学は、身体運動の科学であり、理学療法、作業療法を実務とする為には必要不可欠の学問である。身体構造理解の基礎となる解剖学、身体機能を学ぶ生理学、そして身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることを理解する。本講義では、筋骨格系、関節構成体構造とモーメントやテコの視点から身体運動、動作、行為が効率良く合理的システムに基づいて行われているか学ぶ。また運動学的分析の手法を学び、人間の動作を客観的に分析できることを目指す。身体運動の理解に必要な物理学や生体力学の知識を整理し生体の構造や機能について教授する。		
到達目標	運動学に多く使われる用語を理解し使用できるようになる。運動力学の基礎、身体の運動時、動作時の特徴を理解し、実践の場における病態説明、デモンストレーションが出来るようになる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、評定方法の他、運動学の重要性について学ぶ	
第2回	運動学総説	解剖学、生理学の基礎医学ならびに理学療法、作業療法との関連について学ぶ	
第3回	身体運動Ⅰ	運動学を理解するための必要な身体における運動面、運動軸について学ぶ	
第4回	身体運動Ⅱ	運動学を理解するための必要な身体各部の運動方向の名称について学ぶ	
第5回	運動を構成する要素（上肢帯・自由上肢）①（骨）	身体運動の効果器としての骨の機能について学ぶ	
第6回	運動を構成する要素（上肢帯・自由上肢）②（関節）	身体運動の効果器としての関節の構造と機能について学ぶ	
第7回	運動を構成する要素（下肢帯・自由下肢）①（骨）	身体運動の効果器としての骨の機能について学ぶ	
第8回	運動を構成する要素（下肢帯・自由下肢）②（関節）	身体運動の効果器としての関節の構造と機能について学ぶ	
第9回	生体力学の基礎Ⅰ（モーメント）	運動学理解を深める為、運動時の筋活動および関節に生じるモーメント（トルク）について学ぶ	
第10回	生体力学の基礎Ⅱ（平衡と安定）	運動学理解を深める為、運動時の平衡条件および安定性について学ぶ	
第11回	生体力学の基礎Ⅲ（ニュートン力学）	ニュートン力学の基礎、仕事とエネルギー消費および身体とてこについて学ぶ	
第12回	姿勢と構え	姿勢とその制御機構について運動学的に理解する	
第13回	歩行	歩行動作時の運動学的、運動力学的分析方法について理解する	
第14回	異常歩行と走行	高齢者、異常病的歩行の特徴、その要因、走行時の運動効率性について理解する	
第15回	総括、質疑	振り返り（グループ学習）	
テキスト・参考書	教科書：「基礎運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4-263-21153-3 参考書：「臨床運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4263211342		
学修方法	テーマごとに座学形式で行う。		
評価方法	定期試験（筆記試験）100%		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	（予習） 運動学は、解剖学、生理学、物理学（力学）の知識が無ければ、理解が進まない。 毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学（力学）の復習をしてくること。 例：肩関節の授業の前は、肩関節の解剖の復習をしてくる。（復習） 授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くよう復習すること。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	運動学Ⅱ	担当教員名	酒向 俊治【実務該当教員】・小澤 敏夫【実務該当教員】・原 和子【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	人間の身体的構造や、各器官組織の生理的、生化学的反応を理解した上で、実際の人間の運動、行動への応用について理解する。解剖学、生理学に加え、力学を中心にした運動法則に基づいて人間の体における基本的な運動から応用された動作や行為にいたるまでの仕組みを理解する。人間の運動を構造的、立体的に理解し、姿勢制御や運動学習といった神経生理学的な観点からも、運動がどのように行われ、学習されているのか、その理解を深める。また、運動療法の効果や日常生活活動の分析などを学ぶ。		
到達目標	身体運動の仕組み、日常生活の行為について基礎的な専門用語を用いて説明できる。 実習課題についてレポートにまとめることができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、生体力学	てこの原理、モーメント	
第2回	上肢帯と上肢の運動(1)	肩複合体の運動学、肩甲上腕リズム	
第3回	上肢帯と上肢の運動(2)	肘関節、前腕の運動学	
第4回	上肢帯と上肢の運動(3)	手関節、手指の運動学	
第5回	下肢帯と下肢の運動(1)	股関節の運動	
第6回	下肢帯と下肢の運動(2)	膝関節の運動	
第7回	下肢帯と下肢の運動(3)	足関節の運動	
第8回	運動制御	フィードバック、フィードフォワード制御	
第9回	体幹の運動学	脊柱、体幹の運動学	
第10回	姿勢と歩行	姿勢、正常歩行と異常歩行、走行	
第11回	歩行周期と筋活動、重心移動	通常歩行の観察、分析体験する	
第12回	歩行分析：応用歩行	応用歩行の観察、分析体験する	
第13回	運動発達	発達と発達分析	
第14回	運動学習	運動学習の種類と諸理論	
第15回	運動とエネルギー供給	運動時のエネルギー代謝と運動処方	
テキスト・参考書	教科書：「基礎運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4-263-21153-3 参考書：「臨床運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4263211342		
学修方法	事前に教科書の指定範囲をよく読み、実習の目的・準備・手順・結果のまとめ方・考察のポイントについて理解し、実習当日の説明の際、不明な点について質問する(30分程度)。実習後は結果のまとめを速やかに行い、レポート作成にとりかかる(1時間程度)。		
評価方法	小テスト（20％）、定期試験（筆記試験）80％		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00		
備考・履修条件	欠席をしないように心がけてください。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	運動学演習	担当教員名	近藤 崇史【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動学演習の基礎として、人間の体の仕組みと運動、解剖学、生理学、力学を再学習理解する必要がある。運動学Ⅰ・Ⅱの学習した電気生理学的、力学的、動作分析学的思考は本演習の理解を深める為に必要不可欠である。運動・動作課題に伴う体の動きを可視化し、また手で触れることを通じて運動と骨格筋の働きについて理解を深める。また、得られたデータから結果をまとめ、グループ討議を行い解釈しそれぞれの運動との因果関係を学習するプロセスを経験する。		
到達目標	1. 運動の位置づけができるようになる 2. 筋骨格系の仕組み及び機能を説明できるようになる 3. 演習内容と臨床との関連を理解する		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	上肢帯および上肢の関節運動①	肩、肘、手関節のそれぞれの関節運動について学ぶ	
第2回	上肢帯および上肢の関節運動②	手指関節、手指の関節運動と巧緻性について学ぶ	
第3回	上肢帯および上肢の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第4回	下肢帯および下肢の関節運動	股、膝、足関節のそれぞれの関節運動について学ぶ	
第5回	下肢帯および下肢の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第6回	脊柱・体幹の関節運動	各関節運動について学ぶ	
第7回	脊柱・体幹の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第8回	筋力	モーメント、トルクについて学ぶ	
第9回	筋活動	筋電図とその解析方法について学ぶ	
第10回	姿勢	重心、アライメントについて学ぶ	
第11回	生体力学①	動作における身体の重心移動について学ぶ	
第12回	生体力学②	動作における重心位置と支持基底面の関係性について学ぶ	
第13回	動作分析	基本動作の分析について学ぶ	
第14回	歩行	歩行分析について学ぶ	
第15回	呼吸と循環	運動負荷試験における呼吸・循環応答を学ぶ	
テキスト・参考書	教科書：石川朗他編集 運動学実習 15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト、中山書店 参考書：中村隆一他著 基礎運動学第6版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生命倫理	担当教員名	太田 美智男【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	保健・医療・福祉システムが進展する中で、倫理に関する知識について学び、生命、人の尊厳を学ぶ。ヒトゲノム解析、ES細胞、iPS細胞の研究応用、クローン技術、脳死、代理母出産や凍結受精卵による妊娠出産などの生命技術は、人々に益をもたらす一方で複雑な生命倫理問題を生みだしている。生命技術が倫理や哲学と離れたところで一人歩きしてしまうと何が起こるか。ヒトはいつ人間となるのか、いつ死ぬのか、生命の質について学ぶ。また生命技術と生命医療の進歩が人類に何をもたらし、どのような方向に向かっているのかを学ぶ。		
到達目標	① 生命倫理、医療倫理、臨床倫理等の関連領域の理論の動向が理解できる。 ② 医療における倫理に関する規範・原則や指針について説明できる。 ③ 医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生命倫理の原則	医の倫理から生命の倫理へ、ヒポクラテスの誓い、生命倫理の4原則	
第2回	健康と病気、診断、予防、治療と生命倫理	患者との距離、守秘義務、病気と健康、精神疾患、医療不信、予防、治療と生命倫理	
第3回	生殖医療と人工妊娠中絶	ハイリスク妊娠、周産期死亡、不妊治療、人工妊娠中絶と母性保護、親子関係、生殖医療のガイドライン、クローン技術、優生保護法	
第4回	移植医療と脳死	臓器移植、生体臓器移植、脳死判定、臓器移植法	
第5回	臨床試験（治験）と人体実験	臨床試験と倫理、統計的有意差、二重盲検試験、臨床試験におけるヘルシンキ宣言、EBMによる標準化、動物実験と動物愛護法	
第6回	遺伝子医療	遺伝子組み換え技術の医療への応用、ゲノム編集、遺伝子医療の問題点、	
第7回	安楽死	安楽死の定義、消極的安楽死、積極的安楽死、尊厳死、植物状態、判例、宗教と安楽死、リビングウィル、自己決定	
第8回	終末期医療と緩和ケア、インフォームドコンセント	終末期医療、緩和ケア、ホスピス、在宅で受ける緩和ケア、インフォームドコンセント、癌の告知	
テキスト・参考書	教科書：今井道夫著 生命倫理学入門（第3版） 産業図書 参考書：玉井 真理子・大谷 いづみ編 はじめて出会う生命倫理 有斐閣		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 12:20～12:50 金曜日 12:20～12:50 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	人間発達学	担当教員名	平岡 翠【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	胎生期から成人に至るまで、人間の成長は人間の進化の縮図とも言われる。人間の成長における発達段階を理解することは、原始的な生体反応から成長し完成された生体活動に至るまでの過程を学修することである。様々な疾患によってもたらされる障害の克服のために、人間の発達段階を理解し、それを利用して理学療法・作業療法を展開させる場面も多い。人間の発達を系統発生と個体発生の両面から検討する。人類の起源と進化の問題にふれ、人間の身体の形態的特徴と行動様式について調べる。次に、個体発生の視点から、ヒト新生児の特異性と人間の子どもの成長期の特徴に着目し、人間の発達特性とその意義について学修する。		
到達目標	①人間発達学の対象領域について説明できる。 ②各期の発達について説明できる。 ③神経系、内部機能、身体機能の発達について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	発達概念	人間発達期の区分、発達に関する定義、発達の原則	
第2回	発達理論	漸成的発達論と非漸成的発達論	
第3回	発達検査	目的と方法、標準化された発達検査	
第4回	姿勢反射と反応	原始反射の出現と消失(統合)	
第5回	運動発達（0～3か月）	背臥位、腹臥位、座位、立位	
第6回	運動発達（4～6か月）	背臥位、腹臥位、座位、立位	
第7回	運動発達（7～9か月）	四つ這い位、立ち上がり、しゃがみ、伝い歩き	
第8回	運動発達（10～12か月）	立位から歩行の発達過程、幼児の粗大運動発達	
第9回	6歳（13～18か月含む）までの発達（姿勢反射・反応）	粗大運動発達、歩行と走行、非対称的両側活動、平衡反応、ADL機能（手指・摂食・言語・社会性）の発達	
第10回	学童期の発達	学童期の特徴と心と身体の発達	
第11回	思春期の発達	思春期の特徴と心と身体の発達（自己概念、第二性徴、自我同一性の獲得）	
第12回	青年期の発達	青年期の特徴と心と身体の発達	
第13回	成人前期の発達	成人前期の特徴と心と身体の発達	
第14回	成人後期・老年期の発達	成人後期・老年期の特徴と心と身体の発達	
第15回	まとめ（グループにて発表）	人間発達のそれぞれの特徴とセラピストとしての関わり方についてまとめ発表を行う	
テキスト・参考書	教科書：上杉雅之監修 イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版 2015 参考書：森岡周 発達を学ぶ 協同医書出版 2015		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	病理学	担当教員名	川田 憲司【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生体に起こる様々な病変や疾患が、どのような原因でおこり（病因）、どのような変化を生じ（病変）、どのように推移し（経過）、最後にどうなるか（転帰）など、いわゆる病変や疾患の本質をよく理解し、医療技術者として正しい知識を身につける。病理学を総論と各論に分けて学び、総論は疾患を①退行性病変（萎縮、代謝障害、壊死）、②循環障害、③進行性病変（肥大、増生、再生、化生、創傷治癒、異物処理）、④炎症、⑤腫瘍、⑥先天性異常の組み合わせとして理解し、各論で代表的な疾患を総論で学んだ知識を基に体系化する。		
到達目標	①様々な病因を理解する。 ②病因によって起こる病変、経過、転帰について理解する。 ③免疫など身体側の疾病に対する対応について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	病理学とは、退行性変化	病理学と疾病の概要、病因による細胞・組織の障害の種類(壊死とアポトーシス・変性・萎縮)	
第2回	物質代謝異常	脂質代謝異常、糖質代謝異常、たんぱく質代謝異常、アミロイドーシス、核酸代謝異常	
第3回	進行性病変	細胞増殖と再生・化生・創傷治癒と骨折治癒、肉芽組織、異物の処理、肥大・過形成	
第4回	循環障害①	体液循環、充血、うっ血、旁束循環、出血、血栓症、塞栓症、	
第5回	循環障害②	虚血と梗塞、浮腫、ショック、高血圧	
第6回	炎症①	炎症の原因と代表的症状、炎症の基本病変と仕組み、炎症細胞とケミカルメディエーター	
第7回	炎症②	炎症の経過的分類、急性炎症・慢性炎症および特異性炎の組織学特徴、炎症の全身への影響	
第8回	免疫①	免疫系の役割、免疫応答の仕組みと免疫担当細胞の種類、抗体の種類と働き、補体の働き、アレルギー疾患、自己免疫疾患	
第9回	免疫②・感染症	免疫不全症、移植免疫、がん免疫、感染症と病原体の種類、感染臓器と病原菌	
第10回	生活習慣病・老化	肥満と生活習慣病、肥満の病理学的変化、老化の仕組み、諸臓器の老化と病気、老化によるがんの発生、老年症候群	
第11回	新生児の病理	正期産児の疾病、早産児の疾病	
第12回	先天異常	先天異常の原因・要因、染色体異常により先天異常、主な奇形の種類	
第13回	腫瘍①	腫瘍の分類と命名法、腫瘍の肉眼的・組織学的な分類、腫瘍の発生と発育、悪性腫瘍の進展と転移	
第14回	腫瘍②	腫瘍と宿主の関係、腫瘍の原因と発生メカニズム、腫瘍の疫学	
第15回	主要臓器の疾患	主要臓器の代表的疾患のまとめ	
テキスト・参考書	教科書：カラーで学べる 病理学 第5版 NOUELLE HIROKAWA 参考書：中島雅美・野口敦編 PT・OT基礎から学ぶ病理学ノート 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義は教科書を基軸に、主要病変の肉眼的・顕微鏡的病変像のスライド投影を加えることで、病変をより体得しやすくする		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（15％）授業への積極的取み（5％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	感染防御と安全管理	担当教員名	太田 美智男 【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	コロナウイルス感染など、さまざまな微生物による感染症は依然として人類の脅威であり、特に高齢者や重症基礎疾患を持つ患者にとっては死亡原因となることもある。また現代の高度先進医療では手術や薬物治療など患者に侵襲性の高い治療を行うこともあり、それらの患者は易感染状態で感染症の危険にさらされる。したがって本講義では医療従事者に必要な微生物学及び感染症について講義するとともに、微生物学の知識を踏まえた適切な感染予防方法とその意義を講義する。また人が本来持つ感染防御機構である自然免疫（非特異的感染防御能）および獲得免疫（特異的感染防御機構）についてその概略を説明する。 さらに本講義では近年医療の現場で重要視されるようになった医療事故防止のための医療安全の取り組みについてその基本的考え方を説明し、リハビリテーションにおける運動負荷を伴う訓練のための安全管理ガイドラインと、実際に問題となる個々の患者の症状・病態について安全管理に基づいて講義する。さらに医療の現場で起こった主な医療事故の事例を提示し説明する。		
到達目標	①凶に感染を起こす主要なウイルス、細菌、真菌などについて、知識を持つ。 ②肺炎、尿路感染症、腸炎、敗血症、皮膚感染などについて、感染の成立過程とそれに対する人の反応の概略を知る。 ③感染症に対する人の非特異的感染防御機構である自然免疫および特異的感染防御機構である獲得免疫について理解する。 ④感染経路別感染予防策および消毒・滅菌、清潔操作について十分な知識を持つ。 ⑤医療安全の取り組みについて基本的考え方を理解し、起こりやすい医療事故について十分な知識を身につける。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	感染を起こす主要微生物	ウイルス、細菌、真菌、原虫、細菌毒素、感染症治療薬	
第2回	感染経路別感染症の病態生理	肺炎、尿路感染症、腸炎、敗血症、皮膚感染などについて、それぞれの感染症の成立の概略と症状、炎症反応（局所反応及び全身反応）	
第3回	自然免疫と獲得免疫	自然免疫、獲得免疫のメカニズムと感染予防、ワクチンによる免疫の獲得	
第4回	標準予防策と感染経路別予防策	標準予防策の方法、接触感染予防策、飛沫感染予防策、空気感染予防策	
第5回	消毒・滅菌、清潔操作	物理的消毒・滅菌法、化学的消毒・滅菌法、手洗い、手指・皮膚消毒法、医療機器消毒、環境消毒	
第6回	医療安全管理	医療安全の考え方、ヒューマンエラー、医療安全教育、リスクマネジメント、ヒヤリハット・インシデントと報告。本人確認、チューブ管理、施設安全管理。職業感染予防、感染性廃棄物処理	
第7回	運動負荷を伴う訓練のための安全管理	リハビリテーション医療における安全管理ガイドライン、バイタルサイン、疼痛などに対する対応、心肺機能、運動機能、めまい、精神・神経機能などと訓練	
第8回	医療の現場で見られる医療事故	主な医療事故：院内感染、転倒、誤投薬、手術ミス、患者取り違え、その他。医療訴訟	
テキスト・参考書	教科書：坂本史衣著 基礎から学ぶ医療関連感染対策改訂第3版 南江堂 公益社団法人日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン第2版 参考書：医療情報科学研究所編 病気がみえるVol.6免疫・膠原病・感染症第2版 メディックメディア		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 16:10～16:30 研究室、金曜日 16:10～16:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	臨床心理学	担当教員名	西牟田 祐美子【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床心理学は、人の心の問題について心理学的な側面から人間理解と援助技法を用いて、対象者の社会的適応力や発達、自己実現を支援していく実践的な学問である。本講義では臨床心理学の役割、問題の分類、問題のアセスメント、心理療法について学習し、カウンセリングの面接技法を実践的な場面から学ぶ。さらに、心理的支援を要する精神疾患や各発達段階における心理的課題について理解し、保健医療分野、福祉分野など様々な領域における実践について学ぶ。		
到達目標	①防衛機制について説明できる。 ②心理検査の役割とその方法について理解する。 ③カウンセリングの理論、カウンセリングの面接技法を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	臨床心理学とは何かについて歴史的側面から、ヨーロッパを舞台とした精神分析学の発展とアメリカを中心に発展してきた、行動療法、来談者中心療法、という心理療法の理論と実践における方法論についての理解を育む。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、臨床心理学の歴史と様々な方法論に関して理解する（テキスト 10、11、16、17、58、59、202ページ）。	
第2回	心理療法の代表的な3つのアプローチについて理解を深める。 フロイトの精神分析的アプローチについて学修する。	心理療法の3つのアプローチについて理解する。 テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの精神分析的アプローチについて理解する(テキスト64―67ページ)	
第3回	ユングの考える自己と自己実現	テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの弟子たちの理論(テキスト、78、79ページ)と、夢分析について理解する(テキスト80―82ページ)。	
第4回	アードラーの考える、自己と自己実現	テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの弟子たちの理論(テキスト、78、79ページ)を理解する(テキスト80―82ページ)。アードラーの考える自己と自己実現を理解する。	
第5回	マズローの考える自己実現	プリントを基に、マズローの考える欲求と自己実現を理解する。	
第6回	行動療法、認知療法の理論について学修する。心理アセスメントについて学修する。精神科、緩和ケア病棟の心理アセスメントの意義と実際について理解し習得する。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、アイゼンクらの行動療法、エリス、ベックの認知療法について理解する（テキスト74、75ページ） 心理アセスメントについて理解する(テキスト38―56ページ)。	
第7回	認知療法の理論を通して人々の関係性の視点から行う心理療法に対する理解を深める。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、認知行動療法のA B C D E理論を理解する（テキスト74ページ）。自身の不安、敵意に対してこの技法を試してみる。	
第8回	家族療法の理論を通して人々の関係性の視点から行う心理療法に対する理解を深める。認知行動療法の考える自己と問題解決	テキストと講義ハンドアウトをもとに、家族療法についての理解を深める(テキスト101-113ページ)。	
第9回	ヒューマニスティックアプローチについての理解を深める。心理療法におけるラポールと転移について理解する。	テキストとプリントをもとに、来談者中心療法について理解する(テキスト70―73ページ)ラポール、転移、逆転移について理解する(62、63ページ)。	
第10回	欲求コントロール	プリントを基に、欲求コントロールを理解する。	
第11回	アサーティブネスと自己実現	プリントを基に、アサーティブネスを理解する。	
第12回	笑いとラフターセラピー	プリントを基に、笑い、ラフターセラピーを理解する。	
第13回	対象喪失とグリーフセラピー	プリントを基に、対象喪失とグリーフセラピーを理解する。	
第14回	ジェンダーとカウンセリング	プリントを基に、ジェンダー関連のカウンセリングを理解する。	
第15回	まとめ、確認テスト 課題提出	テキストとプリントを基に学修したことをまとめ、夢レポートの提出する。	

テキスト・参考書	教科書：徹底図解 臨床心理学 編著者名：青木紀久代 出版社・出版年：新星出版社 価格：1500円 参考書：下山晴彦編 よくわかる臨床心理学 ミネルヴァ書房
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	一般臨床医学	担当教員名	河田 美紀【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床医学的観点から、疾病学、病理学の基礎を学び、病気の原因、経過及び結果、病態と機能の変化を理解する。これにより、臨床における疾病学の基本的概念を知り、病気の予防、診断と画像評価、早期治療、リハビリテーションによる後遺症の治療や再発防止を中心とした臨床医学についての基礎を養い、他で開講される様々な症候学を学ぶ上で必要な基礎的な臨床医学知識を習得する。また、臨床において容体が急変する対象者の対応、大規模災害が多発する社会情勢に対応できるよう、救急医学についてもその基礎を学ぶ。		
到達目標	①臨床医学一般の診察、検査、診断から治療への流れを理解する。 ②主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。 ③リハビリテーション学との関連性について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	救急医学	ショック、心肺蘇生法、呼吸管理、輸血、救急処置の概要を理解する。ICUの役割を理解する。	
第2回	外科総論	機械的損傷と非機械的損傷、感染性疾患、末梢血行障害、腫瘍の症状と治療を理解する。	
第3回	脳神経外科総論	症候と病態、主の脳疾患の概要について理解する。	
第4回	循環器疾患、呼吸器疾患	心筋梗塞など循環器疾患、肺炎や慢性肺疾患の病態と治療を理解する。	
第5回	消化器疾患	食道癌・胃潰瘍・胃癌、腸閉塞、大腸癌などの病態と治療を理解する。	
第6回	肝・胆・膵疾患	ウイルス性肝炎、肝硬変、肝癌、胆石、急性膵炎の病態と治療を理解する。	
第7回	血液・造血器疾患	貧血をきたす疾患・白血病・出血性疾患の病態と治療を理解する。	
第8回	代謝性疾患	糖尿病・脂質異常症・痛風などの病態と治療を理解する。	
第9回	内分泌疾患	下垂体・甲状腺・副腎疾患の病態と治療を理解する。	
第10回	泌尿器・生殖器疾患	泌尿器・生殖器疾患の診断と検査法、腎と尿路の代表的疾患の病態と治療について理解する。	
第11回	膠原病・アレルギー・感染症疾患	関節リウマチ・SLE・強皮症など病態と治療を理解する。	
第12回	皮膚疾患	皮疹の特徴と皮膚疾患の原因と症状、皮膚感染症などの病態と治療を理解する。	
第13回	婦人科・産科疾患	性機能の生理、不妊、女性器の腫瘍、正常の妊娠と分娩、不妊について理解する。	
第14回	眼疾患・耳鼻咽喉科疾患	眼疾患の病態と検査を理解する。耳・鼻・咽頭・喉頭疾患の症状と病態生理、検査について理解する。	
第15回	老年期医学、小児疾患	高齢者の代表的な疾患、薬物療法の概要を理解する。 小児の感染症と代表的な疾患の病態と治療を理解する。	
テキスト・参考書	教科書：椿原彰夫、平岡崇編著 PT・OT・STのための一般臨床医学第3版 医歯薬出版株式会社 前田眞治他著 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野内科学第3版 医学書院 参考書：千代豪昭、黒田研二編集 学生のための医療概論第3版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	呼吸循環器内科学	担当教員名	河田 美紀【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	現在のリハビリテーション医療は、運動器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、呼吸器疾患に大別されそれぞれに専門性が重視された診療が実施されている。また、心臓リハビリテーション指導士や呼吸療法認定士等の資格も制定され、個々の臨床成果が期待されている。本講義では呼吸器・循環器疾患に焦点を置き、その病態把握、検査法、治療法、最新の内科学の進歩と課題について学び、理学療法士、作業療法士として必要な基礎的知識を習得する。		
到達目標	①呼吸循環器内科学に必要な症候学、診断学、及び治療学を理解する。 ②主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。 ③リハビリテーション学との関連性について理解する。 ④疾患の予防、発症、治療に関する知識を習得し理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	内科的診断と治療の実際	診察法、臨床検査、内科的治療、リハビリテーションとの関連事項	
第2回	症候学	発熱、倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐などについて理解する。	
第3回	循環器	循環器系の解剖と生理	
第4回	循環器疾患総論①	主要な症候、診断法	
第5回	循環器疾患総論②	検査法と結果の解釈	
第6回	循環器疾患各論①	高血圧、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）	
第7回	循環器疾患各論②	先天性心疾患、弁膜症、心筋症	
第8回	循環器疾患各論③	心不全、不整脈、大動脈、大動脈瘤、心移植	
第9回	心臓リハビリテーション	クリニカルパス、運動療法、食事療法、活動と参加	
第10回	呼吸器	呼吸器系の解剖と生理	
第11回	呼吸器疾患総論①	主要な症候、検査法と結果の解釈、診断法	
第12回	呼吸器疾患総論②	検査法と結果の解釈	
第13回	呼吸器疾患各論①	肺炎、結核、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全	
第14回	呼吸器疾患各論②	気管支喘息、肺癌、肺血栓塞栓症、気胸	
第15回	呼吸リハビリテーション	在宅酸素療法、運動療法、食事療法、活動と参加	
テキスト・参考書	教科書：前田眞治他執筆 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野内科学第3版 参考書：寺野彰総編集 シンプル内科学改訂第2版 南江堂		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	神経内科学	担当教員名	河田 美紀【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーション医療の代表的対象とされる脳血管疾患、パーキンソン病等の中樞神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病等の疾患メカニズムについて学習する。特に脳血管疾患は悪性新生物、心疾患とともに我が国の3大死因となっている。不可逆的障害をもちながら社会生活を維持していくかは、理学療法士、作業療法士にとって大きな課題である。本講義では神経解剖学と神経生理学の基礎を踏まえ、現れた症状から原因を検討し、診断方法と治療法、予後予測、再発予防等を理解する。		
到達目標	①神経学的診断法、神経症候学を理解する。 ②神経内科で扱う疾患の分類を理解する。 ③各疾患の障害部位と症状の関係、疫学、予後を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	神経学的検査と診断	体幹・四肢の検査と診断、画像診断、電気生理学的検査、自律神経機能検査、腰椎穿刺	
第2回	神経症候学（意識障害）	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神	
第3回	神経症候学（運動麻痺・感覚障害）	運動麻痺と錐体路徴候、筋萎縮、錐体外路徴候、運動失調、感覚障害	
第4回	神経症候学（高次脳機能障害①）	失語・失行・失認の概念と分類、症状と責任病巣	
第5回	神経症候学（高次脳機能障害②）	記憶障害・注意障害・遂行機能障害の概念と分類、症状と責任病巣	
第6回	神経症候学（構音障害、嚥下障害）	構音のメカニズム、構音障害の診断と治療、嚥下のメカニズム、嚥下障害の診断と治療、球麻痺と仮性球麻痺	
第7回	神経症候学（神経因性排尿障害、末梢神経症候）	排尿機能、神経因性排尿障害、体制神経と自律神経症候	
第8回	脳神経外科領域の疾患	頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状	
第9回	脳血管疾患	脳血管障害の分類、主症状、内科的治療と外科的治療	
第10回	中枢神経変性疾患	変性疾患の概念と分類、大脳皮質・基底核・中脳の変性疾患、脊髄小脳変性症、脊髄変性疾患	
第11回	脱髄疾患	中枢神経の脱髄疾患、末梢神経の脱髄疾患	
第12回	脳腫瘍、外傷性脳損傷	脳腫瘍の分類・症状・診断・治療、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、びまん性軸索損傷	
第13回	末梢神経障害	絞扼性ニューロパチー、末梢性ニューロパチー	
第14回	筋原性筋萎縮疾患	ミオパチー、筋ジストロフィー、その他の筋原性筋萎縮疾患	
第15回	感染性疾患、小児神経疾患	神経感染性疾患の定義と原因、分類と病因 脳性麻痺、その他の小児神経疾患	
テキスト・参考書	教科書：江藤文夫・飯島節編 神経内科学テキスト改訂第4版 南江堂 参考書：中島正美・島原智美編 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート第2版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	整形外科学	担当教員名	河田 好泰【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	整形外科学は運動器の正常構造と機能を理解するとともに、外傷や疾患などの主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。さらに問診、理学的所見、画像診断、生理学的検査の評価に基づくことを理解する。さらに慢性疾患および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。運動器リハビリテーションの基礎となる四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を身につけ、理学療法、作業療法の実践で活用できる基礎を学習する。		
到達目標	1. 運動器（骨・関節・筋・神経など）の解剖および生理を理解する。 2. 整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の概念を理解する。 3. 各種疾患について専門知識に基づいた判断が出来る。 4. 各種外傷について専門知識に基づいた判断が出来る。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	骨関節の解剖生理	骨関節の解剖と生理、機能を理解する。	
第2回	診断と治療	整形外科的な診断と治療の基本を理解する。	
第3回	上肢外傷	上肢の骨折の病態を理解する。 骨折の他の上肢の外傷について理解する。	
第4回	脊椎の解剖生理 脊椎外傷	脊椎の解剖・生理の特徴を理解する。 解剖・生理に特徴に基づいて脊椎の外傷の病態を理解する。	
第5回	小児整形外科	小児の先天性疾患を理解する。 小児によくみられる外傷や疾患の診断と治療を学ぶ。	
第6回	骨軟部腫瘍	骨軟部腫瘍の病態を理解する。 四肢の骨軟部腫瘍の診断と治療を理解する。	
第7回	下肢外傷	下肢の骨折の病態を理解する。 骨折の他の下肢の外傷について理解する。	
第8回	関節リウマチ	関節リウマチの病態を理解する。 四肢の関節におけるリウマチ性関節炎の診断と治療を学ぶ。	
第9回	下肢のスポーツ障害	膝・足関節疾患の病態、診断と治療を理解する。 下肢のスポーツ障害の病態、診断と治療を理解する。	
第10回	股・膝関節疾患 人工関節	股・膝関節疾患の病態、診断と治療を理解する。 関節疾患とその代表的治療方法である人工関節手術の特徴を理解する。	
第11回	上肢の疾患	上肢の神経障害の病態、診断と治療を理解する。 手や肩によくみられる疾患の病態、診断と治療を理解する。	
第12回	上肢のスポーツ障害 手外科	上肢のスポーツ障害の病態、診断と治療を理解する。 手外科特有の治療を理解する。	
第13回	骨代謝疾患	骨代謝の基礎と骨代謝疾患の病態を理解する。 骨粗鬆症をはじめとする骨代謝疾患の診断と治療を学ぶ。	
第14回	下肢の疾患	下肢によくみられる神経障害や変性疾患の病態とその診断を理解する。	
第15回	まとめ	整形外科の知識確認	
テキスト・参考書	教科書：中村利孝、松野丈夫監修 標準整形外科第13版 医学書院 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	精神医学	担当教員名	井上 真人【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	精神医学は、頭や心の働きの変調や障害に関する知識の集大成であり、精神疾患の診断や治療のあり方を検討する深く広い学問である。精神科領域はリハビリテーションの対象として重要な領域であり、現代の疾病構造としても精神科疾患の理解は重要である。精神医学について総論・各論の全般的な講義を行う。特に臨床的側面に重点を置き、その障害を有する患者の理解に必要な基本的事項を習得し、保健、医療および福祉の場で必要とされる精神科の知識を身につける。		
到達目標	①精神医学の基礎知識を習得する。 ②主な精神疾患の症状、経過、診断、治療を理解する。 ③ライフステージと精神健康問題の関りを理解する。 ④精神障害者福祉の抱えている課題を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	精神医学とは	精神医学の源流、日本の歴史と法制度	
第2回	精神障害の成因と分類	外因性・内因性・心因性、ICDとDSM	
第3回	患者の接し方と精神症状	精神科的面接の方法、知覚・思考・感情の異常	
第4回	精神症状	記憶・意欲・行動・自我意識の異常	
第5回	身体因性の精神障害①	症状性及び器質性精神障害、認知症疾患	
第6回	身体因性の精神障害②	てんかん、アルコール依存症、薬物依存	
第7回	内因性の精神障害①	統合失調症の病型分類・症状・治療	
第8回	内因性の精神障害②	気分（感情）障害の症状・分類・診断・治療	
第9回	心因性の精神障害	神経症、ストレス障害	
第10回	摂食障害・睡眠障害	疾患の概念と症状・診断・治療	
第11回	パーソナリティ	パーソナリティ障害及び行動障害	
第12回	発達障害、児童精神障害	知的障害、学習障害、自閉症、発達障害、チック	
第13回	児童・青年期の行動と情緒障害	情緒障害の分類・特性・症状・診断・治療 その他児童・青年期に発症する各疾患	
第14回	精神科における治療法	薬物療法、精神療法、精神科救急治療法、電気けいれん療法	
第15回	精神医学に関連した知識	リエゾン精神医学、メンタルヘルス、精神鑑定、入院形態	
テキスト・参考書	教科書：上島国利他編集 精神医学テキスト改訂第4版 南江堂 参考書：上野武治編集 標準理学療法学・作業療法学専門分野精神医学第4版 医学書院		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	小児科学	担当教員名	近藤 直実【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	小児の身体発育や身体機能の発達および精神発達、人格形成について学ぶとともに、これらに影響を及ぼす因子や影響への対策についても学習する。小児保健では、その内容や制度について主に解説する。先天異常、急性疾患、慢性疾患などの各種疾患では、その疫学、診断、治療、療育について主に解説する。単に小児科領域における病気を理解するだけではなく、子供という人間、親を含めた子供を取り巻く環境についても理解ができるように解説する。		
到達目標	①成長・発育過程における小児の特性について理解する。 ②小児特有の疾患とその病態について理解する。 ③小児科の医療従事者に必要な救急技術や感染症予防について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	小児科学総論	粗大運動と反射の関連を学ぶ	
第2回	診断と治療の概要	小児科における診断や・検査の過程を学ぶ	
第3回	新生児・未熟児疾患	未熟児の神経学的初見、新生児・周産期異常症状、代表的な中枢神経障害	
第4回	先天異常と遺伝病	遺伝と病気、染色体異常、先天奇形、先天代謝異常	
第5回	神経・筋・骨系疾患①	中枢神経疾患、てんかん、発達遅滞、発達障害	
第6回	神経・筋・骨系疾患②	脊髄性疾患、末梢神経性疾患、骨関節疾患、筋疾患	
第7回	循環器疾患	心血管系の胎外環境への適応、循環器疾患の症状・検査・原因、先天性心疾患と後天性心疾患	
第8回	呼吸器疾患	呼吸器疾患の発生と機能・症状と検査・治療と処置	
第9回	感染症	各年代での代表的な感染症とその症状、診断・治療	
第10回	消化器疾患、内分泌・代謝疾患	消化器の機能的発達と疾患、内分泌疾患、糖尿病とその他糖代謝異常	
第11回	血液疾患、腫瘍性疾患	赤血球・白血球の異常、出血性・血栓性疾患、悪性腫瘍の発生頻度と治療	
第12回	免疫・アレルギー疾患、膠原病	免疫不全・免疫調節障害、膠原病	
第13回	腎・泌尿器系疾患、生殖器疾患	腎疾患と腎不全、泌尿器疾患、生殖器疾患	
第14回	習癖・睡眠、心身症・神経症	小児科にみられる心身症などの主要疾患の病態と治療	
第15回	重症心身障害児	定義及び発達、重症心身障害児特有の問題、療育	
テキスト・参考書	教科書：富田豊編集 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野小児科学 医学書院 参考書：久保田健夫 図解小児科 金芳堂		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	栄養代謝学	担当教員名	森 裕志 【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1 単位	必修/選択	必修
授業の概要	栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するために分解したり、取り込んだ物質を材料に、生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本講義では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、どのような構造の物質か、生体内におけるその役割、どのように消化・吸収されるか、細胞内でどのように代謝されるか、疾病との関わり等、主として生化学的な観点から学ぶ。		
到達目標	①生命の基本構造である細胞な成り立ちを理解する。 ②遺伝子情報と細胞が生きていくための仕組みを理解する。 ③3大栄養素の構造と代謝について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生体の成り立ち	個体、臓器（器官）、組織、細胞、生体を構成する物質	
第2回	アミノ酸、タンパク質の種類と構造	アミノ酸、タンパク質の構造とその役割	
第3回	酵素の働き	酵素とは、酵素の特性、臨床診断への利用	
第4回	糖質、脂質	糖質の構造・消化と吸収・代謝、脂質の構造・消化と吸収・代謝	
第5回	アミノ酸およびタンパク質の代謝	タンパク質の生合成・代謝、タンパク質の生理活性	
第6回	核酸の役割	タンパク質の生合成と遺伝子情報の関係	
第7回	ホルモン、ビタミン、微量元素	ホルモンの役割と恒常性、ビタミン、微量元素の役割	
第8回	消化・吸収と栄養価	栄養・栄養素とは、食品中のエネルギー量、基礎代謝	
テキスト・参考書	教科書：斉藤邦明編集 わかりやすい生化学第5版-疾病と代謝・栄養理解のためにー ヌーヴェルヒロカワ 参考書：若林秀隆編著 リハビリテーション栄養ハンドブック 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	医療薬理学	担当教員名	永井 博弐【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	人類は薬物によって多くの恩恵を受けてきた。医療従事者にとって薬物の種類やその作用に関する知識、理解は重要である。本講義では、疾病の治療、予防や検査において使用される薬物を理解するため、薬理に関する基本的知識として薬理作用、体内動態、副作用、相互作用、中毒等について学習する。また、リハビリテーション領域における代表的疾患に処方される代表的な治療薬の分類、薬物名、作用機序、副作用、複数の薬物処方による相互作用、禁忌等についても学習する。		
到達目標	投薬処方時の主作用・副作用等の薬理作用を理解する。また、薬物が体内でどのように作用しているか（薬物動態学）、作用機序（薬力学）について概念を他者に簡潔に説明できるようになる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	薬理学総論	医薬品とは何か、医療用医薬品、処方せん医薬品について学ぶ。	
第2回	薬の作用と作用機序	薬物の作用機序、受容体の相互作用および汎用性ある薬物の作用機序について理解を深める。	
第3回	薬物の体内動態(1)	薬物動態の基本となる吸収、分布、代謝、排泄を学ぶ。また、薬物動態と副作用発現との関係を理解する。	
第4回	薬物の体内動態(2)	高齢者、障害者における薬物動態の特性について理解する。	
第5回	医薬品の副作用と毒性	個々の医薬品の主な副作用や毒性を学ぶ。また、過去におきた代表的な薬害事例を知る。	
第6回	薬理学各論（1）	臨床応用に基づいて医薬品を大まかに分類できることを学ぶ。	
第7回	薬理学各論（2）	リハビリテーション医療で処方される医薬品を列挙し、その作用と副作用を理解する。	
第8回	総括	まとめ（薬理学の重要性について）	
テキスト・参考書	教科書：図解 薬理学 第2版 医学書院 著：越前 宏俊		
学修方法	授業後は教科書、配布資料、確認プリントを利用し復習をおこなうこと。		
評価方法	方法・基準 レポート100%		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	スポーツリハビリテーション概論	担当教員名	石塚 和重【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	健康は万人の願いであり、また個々の人生のＱＯＬ維持には必要不可欠な要因のひとつである。特にスポーツ・レクリエーションは体を動かすという元来人間が持っている欲求に応えるだけでなく、爽快感や達成感、他者との連帯感を共有する等の精神的な充実感において健康保持増進に極めて有用である。また健康維持増進のための食生活、運動習慣の重要性を科学的に理解し、運動による健康維持増進、体力増進等を目的とした知識とその方法について理解する。生活習慣病と運動、食生活との関連性、疾病状態の身体的特徴、また加齢による体力低下等による運動の選択などに関しても実践出来るよう学ぶ。		
到達目標	幼少期からの運動・スポーツ習慣のある生活は、健康維持・増進にとって極めて重要である事を理解し、自発的、積極的な実践指導ができるようになる。健康についての十分な理解と健康と運動・スポーツ関連性について啓発できる知識、理解力をもつことができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、健康の定義	健康であるとはどういうことか理解する。	
第2回	健康と生活習慣の関連性	健康と生活習慣の相互関連性	
第3回	健康とストレスの関連性	生活習慣、日常のストレスと精神健康と関連性	
第4回	体力の概念、構成要素	体力とは何か？、大学生の体 力、体力の測定と評価方法	
第5回	なぜ運動が必要か？、運動の実際・効果	運動の意味を考える、運動の実 際を事前に読む。	
第6回	健康づくりのための政策	身体活動・運動分野における国民の健康づくりのための取組み	
第7回	代表的なスポーツ外傷・障害	スポーツ現場での救急法、RICE処置	
第8回	スポーツの役割：する、みる、ささえるスポーツ	スポーツの役割、スポーツの変遷、スポーツとマナー、スポーツの指導者）を事前に読む。	
テキスト・参考書	教科書：「大学生の健康スポーツ科学」大学生の健康スポーツ科学研究会著、道和書院 参考書：適宜紹介する		
学修方法	必要に応じて、参考資料を配付します。 授業内課題のフィードバック：次週		
評価方法	定期試験成績（100％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	老年学	担当教員名	河田美紀【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	老化について理解し、上手に年をとる、すなわち健康で充実した人生の展開にむけたリハビリテーションについて学習する。その為には、加齢に伴う身体・心理的变化を理解し、高齢者への対応や高齢者特有の疾患を把握するとともに、高齢者を取り巻く社会問題や制度といった環境からQOLとは何か学習する。その具体的内容は、老化と老年病、認知症、呼吸器・消化器・循環器・腎泌尿器・内分泌・代謝・感覚器・皮膚疾患等、脳血管疾患、クレイ社を取り巻く環境、死生観・ターミナルケア、介護保険などとする。		
到達目標	①加齢に伴う生理・運動機能・精神心理面の変化を説明できる。 ②高齢者へのリハビリテーション医療を説明できる。 ③高齢者を取り巻く社会的背景、物理的環境を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション 高齢化と諸問題・加齢に伴う変化	老化と老年期の考え方、高齢化の進行とそれに伴う諸問題	
第2回	高齢者へのアプローチ	高齢者の定義と人口動態、高齢者の機能評価・薬物療法	
第3回	高齢者に特徴的な症候と疾患①	意識障害、認知症、専門、抑うつなどの概要と対応について理解する	
第4回	高齢者に特徴的な症候と疾患②	めまい、しびれ、言語障害、腰痛などの概要と対応について理解する	
第5回	高齢者に特徴的な症候と疾患③	転倒、尿失禁、廃用症候群などの概要と対応について理解する	
第6回	高齢者に特徴的な症候と疾患④	褥瘡、脱水、浮腫、嚥下障害などの概要と対応について理解する	
第7回	循環器疾患	血圧異常、不整脈、虚血性心疾患などの概要と対応について理解する	
第8回	呼吸器疾患	誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患などの概要と対応について理解する	
第9回	消化器疾患	逆流性食道炎などの概要と対応について理解する	
第10回	骨・運動器疾患	骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靱帯骨化症などの概要と対応について理解する	
第11回	神経疾患	脳血管障害、Parkinson病などの概要と対応について理解する	
第12回	その他の疾患	糖尿病、耳鼻咽喉疾患、眼疾患などの概要と対応について理解する	
第13回	高齢者を取り巻く環境とリハビリテーション	社会学・経済学からみた高齢社会、高齢者リハビリテーション医療の動向	
第14回	終末期医療	高齢者の終末期医療の考え方と諸動向	
第15回	介護保険	介護保険の現状と地域包括ケアシステムの役割	
テキスト・参考書	教科書：大内尉義編集 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野老年学第4版 医学書院 参考書：中村重信著 老年医学への招待 南山堂 近藤克則著 健康格差社会を生き抜く 朝日新書		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション医学	担当教員名	江崎 正浩【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーションとは障害者の能力を回復し、人間らしい社会生活に再適合（社会復帰）するための過程であり、機能訓練はその手段の一つに過ぎない。具体的には1. 廃用の予防 2. 失われた機能の回復 3. 代償機能の獲得であり、最終的目標はADLの自立、家庭・社会生活への復帰である。本授業では脳卒中・脊髄損傷・骨折などを例にとりリハビリテーション医学について理解を深めてもらいたい。		
到達目標	毎回、講義前に教科書「リハビリテーションビジュアルブック（学研）」の指定した項目の通読・予習を期待します。授業ではスライドを使って教科書の該当する項目を講義します。試験問題は授業中に示します。提示した問題以外からは出題しません。授業を聞いてなぜこの問題はこの回答になるのかをしっかりと理解してください。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	リハビリテーション総論	リハビリテーションとは？各種障害の概説	
第2回	脳卒中（脳出血）の治療の流れ（症例1）	脳出血を例にとり中枢疾患のリハビリを概観する	
第3回	脳卒中とは？	脳卒中の病型 画像診断 脳卒中の一次障害（意識障害・運動障害・感覚障害）	
第4回	脳卒中（脳梗塞）の治療の流れ（症例2）	脳卒中の一次障害（摂食嚥下障害・高次脳機能障害・言語障害。排尿障害）	
第5回	脳卒中のリハビリテーション	脳卒中の二次障害（廃用）急性期リハビリ・回復期リハビリ	
第6回	脊髄損傷（完全対麻痺）の治療の流れ（症例1）	脊髄損傷とは？ 脊髄損傷の病型 脊髄損傷による一次障害その1（運動障害・感覚障害・排尿障害）	
第7回	脊髄損傷（不全四肢麻痺）の治療の流れ（症例2）	脊髄損傷による一次障害その2（自律神経障害）脊髄損傷による二次障害（褥瘡）脊髄損傷のリハビリ 固縮と痙縮	
第8回	認知症（痴呆）	認知症の病型・治療・リハビリ	
第9回	ニューロリハビリテーション	21世紀の脳卒中リハビリ 麻痺が回復する？！	
第10回	骨折・外傷	骨折の治療・合併症・リハビリ 高齢者の骨粗鬆症と大腿骨頸部骨折	
第11回	整形外科疾患のリハビリ	肩関節周囲炎、腰痛症などのリハビリ	
第12回	切断と義肢	義手・義足の仕組みとリハビリ	
第13回	神経・筋の変性疾患	パーキンソン病のリハビリ 評価	
第14回	呼吸器リハビリテーション	慢性呼吸疾患の評価とリハビリ	
第15回	心臓大血管リハビリテーション	心筋梗塞・慢性心不全のリハビリ 心肺機能・持久力の評価	
テキスト・参考書	教科書：リハビリテーションビジュアルブック 第2版 学研 教科書：PT/OT 国家試験 必修ポイント2022 障害別PT治療学		
学修方法	＜予習＞テキストにて、次回の章にひととおり目を通しておくこと。＜復習＞毎回講義後に指定した重要箇所を復習する。		
評価方法	定期試験（80％）受講態度（20％）		
オフィスアワー	講義後 15分間 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション概論	担当教員名	酒向 俊治【実務該当教員】・ 小澤 敏夫【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて学ぶ。具体的には、リハビリテーションの定義、歴史、目的を概説した後、障害の分類、医療従事者とチーム、関係法規・保健医療福祉行政、医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションなどのリハビリテーションの仕組みについて解説する。また、地域リハビリテーションも含めた施設別、病期別リハビリテーションについても触れ、それぞれのリハビリテーションの目指す目標についても学習する。		
到達目標	① リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて説明できる。 ② 関係法規と担当する保健医療福祉行政について説明できる。 ③ 障害の様相とそのリハビリテーションを説明できる。 ④ 地域リハビリテーションについて説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	リハビリテーションの理念と障がい	リハビリテーションの理念とその歴史的変遷、サービス体系、障がいに対する基本的な考え方を理解する。	
第2回	リハビリテーション関連法規	障害者基本法、介護保険制度を中心に理解する。	
第3回	リハビリテーションのサービス体系	リハビリテーションサービスとは何か、福祉サービス、社会資源、社会資源について理解する。	
第4回	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション、場面ごとのリハビリテーション	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション、の違いを理解する。施設ごとのリハビリテーションを理解する。	
第5回	医療とリハビリテーション専門職種と役割	インフォームド・コンセント及び専門職種の役割を理解する。	
第6回	チームアプローチ	チーム医療の連携とチームアプローチの有効性について理解する。	
第7回	ADL、QOLの概念と評価法	ADLとQOLの概念と評価法（SH-36）について理解する。	
第8回	障害の心理的・社会的視点	病（障害）の心理および防御機制を理解する。	
第9回	ヒトの発達と評価（とくに小児）	小児の発達および主な小児疾患リハビリテーションを理解する。	
第10回	医療機関で行うリハビリテーション治療	急性期・がんリハビリテーションについて理解する。	
第11回	高齢化による機能障害のリハビリテーション	高齢化による機能障害のリハビリテーションの目的と実際を理解する。	
第12回	身体障害の様相	肢体障害、感覚機能障害、内部障害、高次脳機能障害について理解する。	
第13回	身体障害のリハビリテーション	肢体障害、感覚機能障害、内部障害、高次脳機能障害に対するリハビリテーションの目的と実際を理解する。	
第14回	地域におけるリハビリテーションの展開過程	地域リハビリテーションとは何か、活動に関する諸因子、支援体制について理解する。	
第15回	リハビリテーション過程	リハビリテーションにおける評価の流れを理解する。	
テキスト・参考書	テキスト：上好昭孝、田島文博編著 医学生・コメディカルのための手引書リハビリテーション概論 改訂第3版 永井書店 参考書：砂原茂一著 リハビリテーション 岩波書店 上田敏著 ICFの理解と活用 【KSブックレットNo.5】人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか きょうされん 中村隆一、佐直信彦編 入門リハビリテーション概論第7版 医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験成績（80%）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	地域包括ケアシステム論	担当教員名	小島 誠【実務該当教員】・ 藤井 稚也【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	超高齢社会のわが国において、誰もが住み慣れた地域で生活し続けるためには地域包括ケアシステムの構築が急がれる。リハビリテーション専門職に求められる役割は多岐にわたり、病院や施設と地域の連携、地域ケア会議、多職種連携した各種取り組みの実践、総合事業をはじめ、その範囲は地域における自助と互助の強化に向けたマネジメントにも及ぶ。地域包括ケアシステムの誕生背景と概要を含め、各役割の種類と重要性を学び理解する。		
到達目標	1 地域特性を把握する視点を述べられる。 2 地域特性（地域のニーズ）に応じた地域包括ケアシステムの在り方について述べられる。 3 地域包括ケアシステムのなかで医療におけるリハビリテーションの在り方および連携について説明できる。 4 生活支援のための介護保険サービスにおけるリハビリテーションの提供について理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	社会福祉とは	地域包括ケアシステムとは何か、その歴史。その中でのリハビリテーションの役割を理解する。	
第2回	介護保険制度の仕組みと理念	生活支援のための介護保険サービスにおけるリハビリテーションの提供について理解する	
第3回	健康寿命の延伸課題	健康とは何か、平均寿命と健康寿命について理解する	
第4回	地域包括ケアシステムにむけた在宅生活における多職種連携	地域包括ケアシステムの変遷について理解する	
第5回	地域ケア会議	政策としての地域包括ケアシステムを理解する	
第6回	介護予防・日常生活支援総合事業	地域支援事業について理解する	
第7回	地域での取り組みと効果	ハイリスク戦略とポピュレーション戦略について学ぶ フレイル事業について理解する	
第8回	地域包括ケアシステム構築の取組事例	地域での取り組みを理解する	
テキスト・参考書	教科書：なし 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	社会福祉概論	担当教員名	市川 季夫
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	社会福祉概論は、社会福祉の基礎知識とその理論、歴史的な経緯について学び、日常生活を支える社会保障の体系及び社会保険の仕組みと制度について学修する。具体的には日本の社会福祉の歴史、こどもの福祉、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉、生活保護の仕組みや医療保険制度の概要について入門理論を中心に学ぶ。この授業では、自立した社会人として、社会保障に関する一般的知識と技能と常識に裏付けられた考えを持ち、自己研鑽に取り組み、自らの可能性を生かしつつ組織や社会の中で貢献できる力を身につける。		
到達目標	① 社会保障制度の概念、社会保障の歴史について説明できる。 ② 児童福祉、ひとり親家庭、障がい者福祉、高齢者福祉について説明できる。 ③ 生活保護制度、地域福祉、医療保険制度の概要、精神保健福祉法の概要を説明できる。 ④ 社会福祉分野における相談・援助の役割と展開方法について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	制度から見た社会福祉	社会保障制度の中の社会福祉を理解する。	
第2回	社会保険と社会福祉	社会福祉制度をどのように活用するかを学ぶ。	
第3回	子育て支援の社会福祉	少子化、児童虐待と子育て支援を学ぶ。	
第4回	ひとり親家庭の支援	生活支援と就労支援、そして自立へ向けての支援を学ぶ。	
第5回	高齢者福祉と介護保険	福祉・介護の制度についての概念、介護保険法に関する理解を学ぶ。	
第6回	障がい者・低所得者福祉と自立支援	3障がい者・貧困世帯が活用できる社会資源を学ぶ。	
第7回	社会福祉の援助方法	福祉相談者の基本姿勢と社会資源の活用方法を学ぶ。	
第8回	社会福祉と医療・保健の連携	福祉を担う人々との連携・協働の意義と方法を学ぶ。	
テキスト・参考書	教科書：保健医療福祉職に必要な社会福祉学。川島 芳雄著 丸善プラネット 2200円+税 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントを使う。		
評価方法	受講態度（10％）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	講義後		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法学概論	担当教員名	小澤 敏夫【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法学概論では、理学療法とは何か、理学療法の役割、理学療法に必要な知識や主たる対象、更には理学療法が病期のどの段階で必要となるか、職業人としての理学療法士の職域などを学習する。本科目は1年時受講のため、今後の学習意欲を上げるため具体的な事例を紹介しながら理学療法の全体像をつかむだけではなく、理学療法の奥深さまたはやりがいを知り各自が理想の理学療法士像をイメージできるようにする。初回からの数回にわたり各自が理想の理学療法士像をイメージし、その理学療法士を目指していく中で、今後の学内での体系づけられた学習計画を理解しさらに自己研鑽し学習への意欲を高める。		
到達目標	①理学療法の定義を理解し説明できる。 ②様々な分野で行われている理学療法をイメージできる。 ③今後の理学療法のあり方や可能性について自分の考えを述べられる。 ④主たる対象の疾患や職域がどのようなものであるかを理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	理学療法の概要とリハビリテーションにおける理学療法士の役割	理学療法の定義と概要、理学療法とリハビリテーションの関係理学療法士に求められる人間性について理解する。	
第2回	理学療法の背景（障がいの概念分類保険制度）	障がいのとらえ方、障がいの受容、保険制度について理解する。	
第3回	理学療法の背景（歴史法律職業倫理理学療法士協会）	理学療法の歴史、理学療法士及び作業療法士法、日本理学療法士協会について説明できる。	
第4回	理学療法の構成	運動療法、物理療法、障害分類、理学療法の流れについて理解する。	
第5回	理学療法に必要な知識～教育課程について～	理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則、カリキュラム、学習科目について理解する	
第6回	理学療法の主対象（中枢神経系）	主な中枢神経系疾患の病態と理学療法介入の目的と内容を理解する。	
第7回	理学療法の主対象（運動器系）	主な運動器系疾患の病態と理学療法介入の目的と内容を理解する。	
第8回	理学療法の主対象（内部疾患系）	主な内部疾患系疾患の病態と理学療法介入の目的と内容を理解する。	
第9回	理学療法の主対象（がん・介護予防系）	主ながんの病態と理学療法介入の目的と内容を理解する。介護予防における理学療法介入の目的と内容を理解する。	
第10回	急性期の理学療法	急性期における理学療法の特徴、介入の目的を理解する。	
第11回	回復期の理学療法	回復期における理学療法の特徴、介入の目的を理解する。	
第12回	生活期（維持期）の理学療法	生活（維持）期における理学療法の特徴、介入の目的を理解する。	
第13回	在宅における理学療法の役割	在宅における理学療法の特徴、介入の目的を理解する。	
第14回	行政における理学療法の役割	行政における理学療法の特徴と目的を理解する。	
第15回	研究活動における理学療法の役割	大学、研究所、企業における理学療法の特徴と目的を理解する。	
テキスト・参考書	教科書：理学療法概論（中山書店）石川朗総編集		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	月曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。遅刻早退については学則に準じる。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	表面解剖学	担当教員名	酒向 俊治【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	体表にあらわれた骨、表在の筋、腱、静脈、動脈は、理学療法の検査時における基本的な指標となり、その注意深い観察と触診は病的変化をするためには重要な手掛かりとなる。本講義では、生体観察としての表面解剖学を系統的に講義し、理学療法技術を高めるための知識と表面解剖を学習する。生体に付したランドマークや筋の触診は治療技術に反映されるため、理学療法治療方法へつながり講義形式でもあるが触診などの実技を交えて講義する。		
到達目標	① 骨・関節・靱帯・筋の名称および構造を説明できる。 ② 筋骨格系の機能を説明できる。 ③ 筋骨格系の各部触診を実施できる。 ④ 筋骨格系と運動力学との関連を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション・総論	オリエンテーションと総論から、講義の流れや筋骨格系の触診の重要性、基本知識を理解する。	
第2回	骨関節の構造と機能・触診①	頭蓋骨・脊柱・寛骨の構造・周辺関節機能を理解し、体表から骨触診を実施する。	
第3回	骨関節の構造と機能・触診②	肩甲骨・上腕骨の構造・関節機能を理解し、体表から骨触診を実施する。	
第4回	骨関節の構造と機能・触診③	前腕骨・手根骨の構造・関節機能を理解し、体表から骨触診を実施する。	
第5回	骨関節の構造と機能・触診④	大腿骨・膝蓋骨の構造・関節機能を理解し、体表から骨触診を実施する。	
第6回	骨関節の構造と機能・触診⑤	下腿骨・足根骨の構造・関節機能を理解し、体表から骨触診を実施する。	
第7回	靱帯の構造と機能・触診①	上肢の靱帯の構造と機能を理解し、体表から主要な靱帯触診を実施する。	
第8回	靱帯の構造と機能・触診②	体幹・下肢の靱帯の構造と機能を理解し、体表から主要な靱帯触診を実施する。	
第9回	筋の構造と機能・触診①	頭部・体幹筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第10回	筋の構造と機能・触診②	上肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第11回	筋の構造と機能・触診③	上肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第12回	筋の構造と機能・触診④	上肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第13回	筋の構造と機能・触診⑤	下肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第14回	筋の構造と機能・触診⑥	下肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
第15回	筋の構造と機能・触診⑦	下肢筋の走行・支配神経を理解し、体表から筋触診を実施する。	
テキスト・参考書	参考書：林典雄 他：運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢 下肢・体幹改訂第2版 メジカルビュー社 参考書：中村隆一 他：基礎運動学 第6版 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	臨床運動学	担当教員名	小澤 敏夫【実務該当教員】・近藤 崇史
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動学は、主に健常者の運動、動作の運動を対象とするのに対し、臨床運動学は、主に疾病による機能的制限や能力障害の状態にある者を対象とした動作の観察分析方法を理解する。四肢および体幹の各関節における機能的運動学を学習する。また、姿勢動作分析にとって必要とされる運動力学や生体力学を学び、健常者の動作との比較観察を学ぶ。理学療法の対象となる骨・関節疾患、神経系疾患、呼吸循環器疾患を中心に、病的運動、代償運動の出現のメカニズムを理学療法と関連させ講義する。		
到達目標	① 疾患別に姿勢・運動障害の病態について、その特性とメカニズムを説明できる。 ② 正常動作の生態力学的メカニズムを説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	姿勢・動作を理解するための運動力学	動作・運動を分析する目的を理解する	
第2回	運動力学の基礎①－姿勢の生体力学－	力学的視点で姿勢・動作を捉え、生体力学について理解する	
第3回	運動力学の基礎②－動作の生体力学－	力学的視点で姿勢・動作を捉え、生体力学について理解する	
第4回	姿勢と保持	姿勢の名称、重心と支持基底面を学び、異常姿勢を理解する	
第5回	正常動作①－寝返り・起き上がり動作等－	各動作について、重心と支持基底面、重力など理解する	
第6回	正常動作②－椅子からの立ち上がり動作等－	歩行においての床反力、関節角度、関節モーメントを理解する	
第7回	高齢者の姿勢・動作の特徴と分析	高齢者の姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第8回	脳血管疾患後片麻痺の姿勢・動作の特徴	片麻痺の病態と障害像を知り、片麻痺患者の姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第9回	半側無視を有する脳血管疾患の姿勢の特徴	半側無視を有する片麻痺患者の姿勢・動作の特徴を知り、動作分析ができる	
第10回	対麻痺・四肢麻痺の姿勢・動作の特徴	対麻痺患者の損傷レベル別障害像を知り、姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第11回	パーキンソニズムの姿勢・動作の特徴	パーキンソン病の病態と障害像を知り、姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第12回	運動失調の姿勢・動作の特徴	運動失調の病態と障害像を知り、運動失調の姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第13回	脳性麻痺の姿勢・動作の特徴	脳性麻痺の病態と障害像を知り、痙直型、アテトーゼ型脳性麻痺の姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第14回	変形性股・膝関節症の姿勢の特徴	変形性膝関節症や変形性股関節症の病態と障害像を知り、その姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
第15回	下肢切断の姿勢・動作の特徴	下肢切断・義足使用の病態と障害像を知り、その姿勢・動作の特徴を理解し、動作分析ができる	
テキスト・参考書	教科書：石川朗，他：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 中山書店 参考書：中村隆一：基礎運動学 第6版 医歯薬出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法評価概論	担当教員名	酒向俊治【実務該当教員】・ 鈴木啓介【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法評価は、患者が抱える障害や問題の把握について問診や理学的所見などを通じて得る手段として極めて重要である。これらの情報は整理され、問題点を分析して理学療法における治療方針や治療内容を決定する。また、臨床では実施する検査を選択するにあたり他医療職や患者本人から得られる情報は重要である。本講義では医学情報の収集や医療面接、理学療法検査における検査について学習し、1つ1つの評価結果といくつかの評価結果を統合し患者像をとらえなくてはならない重要性を理解する。さらに、得られた評価結果が機能障害、能力障害、社会的な障壁等の患者の全体像をみるうえで必要不可欠であることを学ぶ。		
到達目標	理学療法評価の流れを説明できる。 医療面接について説明できる。 理学療法検査について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	総論：理学療法評価とは	評価の意義・目的・過程	
第2回	バイタルサイン	意識状態、心拍、血圧、呼吸、体温、経皮的酸素飽和度	
第3回	形態測定	四肢長、周径	
第4回	関節可動域測定	関節可動域測定の意義、留意事項、臨床応用	
第5回	筋力検査	筋力検査の意義、留意事項、臨床応用	
第6回	知覚検査	知覚とは、知覚検査	
第7回	反射検査	深部腱反射、病的反射	
第8回	平衡機能検査	バランス検査	
第9回	筋緊張と筋協調性検査	筋トーンの異常、検査方法。失調、共同運動と連合反応、分離運動の各検査	
第10回	姿勢・動作分析	姿勢検査、基本動作の運動学的分析	
第11回	運動発達検査	運動発達検査	
第12回	姿勢反射検査	各統合レベルによる姿勢反射	
第13回	片麻痺運動検査	ブルンストローム検査法	
第14回	脳神経検査	脳神経検査の意義、検査方法	
第15回	高次脳機能検査	失行・失認・失語・認知症	
テキスト・参考書	教科書：田崎義昭他『ベッドサイドの神経の診かた 第18版』南山堂 松澤正『学療法評価学 改訂第6版』金原出版 津山直一 訳『新・徒手筋力検査法 原著第9版』協同医書出版 参考書：必要に応じてプリントを配布		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	水曜日 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法評価検査・測定論Ⅰ	担当教員名	青木成広・鈴木啓介・小池孝康・ 岩島 隆【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法検査は疾患や患者が抱える障がいにより選択される。本講義では形態測定、整形外科テスト、知覚検査、反射検査、協調性検査、筋トーンス検査、片麻痺運動検査、脳神経検査、高次脳機能検査、日常生活活動動作に関連した検査、呼吸機能検査、循環機能検査、基本動作や歩行に関する動作分析などの方法や検査結果の記録について学ぶ。さらに各疾患や障がいにおいて選択する理学療法検査とその所見の分析について検討し、理学療法のゴール設定、理学療法の治療計画、更には予後予測を決定をするために評価としてそれぞれの所見を統合する過程を学ぶ。		
到達目標	基本的な理学療法検査の手順と所見について説明できる。 疾患や障がいにもとづいた検査の選択について説明できる。 得られた所見からゴール設定や理学療法の選択ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	形態測定	四肢長、周径計測方法とその所見が示唆する病態	
第2回	形態測定 整形外科テスト	四肢長、周径計測方法とその所見が示唆する病態 筋や腱の障害を示唆するテスト 関節の不安定症や関節内の障害を示唆するテスト	
第3回	整形外科テスト	筋や腱の障害を示唆するテスト関節の不安定症や関節内の障害を示唆するテスト	
第4回	知覚検査	疼痛が示唆する病態、表在感覚・深部感覚・複合感覚が示唆する知覚異常について	
第5回	反射検査	深部腱反射・病的反射・姿勢反射の所見と異常所見について	
第6回	協調性検査	協調運動障害、運動失調、測定障害、変換運動障害について	
第7回	筋トーンス検査	正常と異常な筋緊張の違い、被動性検査、懸振性検査、筋強剛の検査	
第8回	片麻痺運動検査	麻痺の回復過程、連合反応、共同運動、分離運動、片麻痺運動検査	
第9回	片麻痺運動検査 脳神経検査	麻痺の回復過程、連合反応、共同運動、分離運動、片麻痺運動検査 脳神経の構成と構成分子、検査	
第10回	脳神経検査 高次脳機能検査	脳神経の構成と構成分子、検査 失認・失行・失語、認知症について	
第11回	高次脳機能検査 日常生活活動検査	失認・失行・失語、認知症について 日常生活活動、日常生活関連動作、手段的日常生活活動、生活の質、各日常生活活動検査	
第12回	呼吸機能検査	呼吸運動、換気、呼吸機能検査、聴診、呼吸障害について	
第13回	循環機能検査	心電図、自覚的運動強度、運動負荷試験とリスク管理	
第14回	動作分析①	基本動作分析	
第15回	動作分析②	歩行・走行分析	
テキスト・参考書	教科書：松澤正『理学療法評価学 改訂第6版』金原出版 田崎義昭他『ベッドサイドの神経の診かた 第18版』南山堂 参考書：必要に応じてプリントを配布		
学修方法	各テーマについての講義演習を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業態度（30％）、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:10～13:00 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法評価検査・測定論Ⅱ	担当教員名	小久保 晃・鈴木啓介・小池孝康・ 岩島 隆【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法に必要な関節可動域測定と徒手筋力テストが理解できる．具体的には，関節可動域測定は基本軸・移動軸・参考可動域・測定上の注意事項が説明できる．徒手筋力テストは検査測定の実施，代償運動の見極め，手働作筋・起始・停止・神経支配を理解できる．より実践的に検査・測定ができるように環境の整備の大切さを理解する．また，理学療法において臨床場面でみられる典型的な疾患や外傷のX線画像やCT画像，MRI画像が説明できる．		
到達目標	1．各評価項目の意義・目的を理解できるようになる。 2．各評価結果から問題点と統合が説明できるようになる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	バイタルサインの観察①	バイタルサイン(脈拍・呼吸)の意義・目的・方法を理解し、実践する。	
第2回	バイタルサインの観察②	バイタルサイン(脈拍・呼吸)の意義・目的・方法を理解し、実践する。	
第3回	関節可動域測定と徒手筋力検査①	上肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第4回	関節可動域測定と徒手筋力検査②	上肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第5回	関節可動域測定と徒手筋力検査③	上肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第6回	関節可動域測定と徒手筋力検査④	上肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第7回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑤	下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第8回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑥	下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第9回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑦	下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第10回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑧	下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第11回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑨	上下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第12回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑩	上下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第13回	関節可動域測定と徒手筋力検査⑪	上下肢の可動域測定と徒手筋力検査を理解し、実践する。	
第14回	画像の診かた① X線とCTとMRI	X線、CT、MRIの画像上の禁忌事項および特徴が説明できる	
第15回	画像の診かた② X線とCTとMRI	X線、CT、MRIの画像の撮影条件が説明できる	
テキスト・参考書	教科書：Dale Avers,他『新・徒手筋力検査法』原著第9版 協同医書出版 参考書：松澤正『理学療法評価学 改訂第6版』金原出版		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10％）、実技課題(20％)、定期試験成績（70％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	運動療法学	担当教員名	石塚 和重【実務該当教員】・ 近藤 崇史【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動療法学は、臨床における理学療法の中核を成すものである。科学的根拠に基づいた運動療法の理解は、臨床的なより実践的な障害別理学療法を学ぶ上で重要な要素となる。運動療法学は、解剖学、生理学、運動学、病理学などの基礎医学の関連性とその応用が必要であることを知る。本講義は、運動療法を適切に行うための基礎的な知識を習得することを目的とする。運動療法の概念、対象疾患とその障害、運動療法の適応と禁忌、リスク管理、運動の危険因子さらに運動療法の目的と治療計画立案等の基礎理論を学習する。		
到達目標	運動のメカニズムの基礎を学び、関節可動域運動、筋力増強、その他運動療法について説明することができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、運動療法とは	運動療法の定義や分類、適応、リスク管理を知る	
第2回	運動学の基礎知識①	力のベクトルや関節モーメント、てこの原理を理解する。	
第3回	運動学の基礎知識②	足圧中心、凹凸の法則、OKC・CKCなどを理解する。	
第4回	痛みの基礎知識	痛みのメカニズム、評価、運動療法について理解する。	
第5回	骨の構造と機能	骨の構造と分類、機能、骨折の発生機序と修復機序を理解する。	
第6回	関節の構造と機能	関節の構造と機能を理解し、拘縮の分類・原因を理解する	
第7回	筋の構造と機能①	筋収縮の種類、筋長と張力について理解する。	
第8回	筋の構造と機能②	筋力増強のメカニズムを理解する。	
第9回	神経の構造と機能	神経の構造と機能、大脳皮質の構造と機能、運動神経と感覚神経を理解する。	
第10回	運動と呼吸機能	呼吸の仕組み、運動と呼吸器系の関係について理解する。	
第11回	運動と循環機能	循環系のしくみと機能について理解する。	
第12回	運動と代謝機能	運動と代謝機能の関係について理解する。	
第13回	運動学習	運動と学習について理解する。	
第14回	視覚と運動制御	視覚と運動制御について理解する。	
第15回	老化と運動機能	運動と加齢の関係について理解する。	
テキスト・参考書	教科書：市橋則明編集：運動療法学 疾患別アプローチの理論と実際 第2版 文光堂 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科	
授業科目名	運動療法学演習	石塚 和重【実務該当教員】・ 近藤 崇史【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	演習
単位数	1単位	必修
授業の概要	本演習では、理学療法対象の代表的疾患に対して学生同士のロールプレイングにて基本的な運動療法技術を模擬的に示せることを修得する。各演習では、筋力の維持・増大、関節可動域の維持・改善、筋持久力の維持・改善全身持久力の維持・改善、協調性の改善、疼痛の軽減、リスク管理、呼吸循環代謝病態の改善等を目的とした運動療法の基本的手技を小グループ毎に実施する。学生は、治療者としての技術面と同時に患者としての心理面への影響についても実践的に学習する。 授業形態：演習	
到達目標	1. 各疾患の特徴を捉え、それに基づいた運動療法を選択することができる。 2. 各運動療法（関節可動域訓練，筋力増強訓練等）が適切に実施することができる。	
授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション、関節運動障害に対する運動療法	関節可動域制限の分類・評価・運動療法
第2回	筋力低下に対する運動療法	筋力低下の分類・評価・運動療法
第3回	持久力低下に対する運動療法	持久力低下の分類・評価・運動療法
第4回	中枢性運動麻痺に対する運動療法	中枢性運動麻痺の分類・評価・運動療法
第5回	末梢神経性運動麻痺に対する運動療法	末梢神経性運動麻痺の分類・評価・運動療法
第6回	感覚障害	感覚障害の分類・評価・運動療法
第7回	バランス障害に対する運動療法	バランス障害の分類・評価・運動療法
第8回	協調性運動障害に対する運動療法	協調性運動障害の分類・評価・運動療法
第9回	姿勢障害に対する運動療法	姿勢障害の分類・評価・運動療法
第10回	歩行障害に対する運動療法	歩行障害の分類・評価・運動療法
第11回	痛みに対するに対する運動療法	痛みの分類・評価・運動療法
第12回	加齢による機能障害に対する運動療法	加齢による機能障害の分類・評価・運動療法
第13回	ストレッチの方法 1	各種ストレッチの種類と方法
第14回	ストレッチの方法 2	IDストレッチ（上肢帯）
第15回	ストレッチの方法 3	IDストレッチ（下肢帯）
テキスト・参考書	教科書：市橋則明編集：運動療法学 疾患別アプローチの理論と実際 第2版 文光堂 参考書：適宜紹介する。	
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	定期試験成績（100％）	
オフィスアワー		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	物理療法学	担当教員名	青木 成広【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	物理療法は、運動療法と並び理学療法の重要なアプローチ方法である。物理療法は、物理的エネルギーによる生体への影響を利用して治療効果を得ようとするもので、張力、圧力、電気、光、温熱、寒冷などの物理的エネルギーの理解が必要である。物理エネルギーの基礎知識を踏まえながら物理療法の基礎や臨床での応用、物理的刺激が生体に与える影響や臨床的に病態生理に対する影響について理解する。物理療法の適用の多い病態を理解し、症状や病態の変化による禁忌についても理解する。		
到達目標	この講義の目標 1. 各療法のエネルギー特性と生理学的作用を理解する。 2. 障害に応じた適切な物理療法を選択することが出来る。 3. 適切に物理療法を行うことが出来る。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション 物理療法とは	物理療法の定義と分類，歴史が理解できる	
第2回	生理学的作用と治療目的 適応と禁忌 物理療法の課題	各療法の生理学的作用と治療目的が理解できる 物理療法の適用・禁忌の意味、禁忌の種類の理解が理解できる 理学療法士に求められる物理療法の課題が理解できる	
第3回	炎症の定義と概念，炎症の徴候 炎症に対する物理療法	炎症の定義・概念，炎症のメカにズムが理解できる 炎症に対応する物理療法についての考え方が理解できる	
第4回	痛みのの定義と概念，分類 痛みに対する物理療法	痛みの定義・概念，分類が理解できる 痛みに対応する物理療法についての考え方が理解できる	
第5回	グループワーク 演習	発表スケジュール作成 課題情報調査・収集	
第6回	グループワーク 演習	グループディスカッション 課題情報調査・収集 プレゼンまとめ	
第7回	グループワーク 演習	グループディスカッション 課題情報調査・収集 プレゼンまとめ	
第8回	グループワーク 演習	グループディスカッション 課題情報調査・収集 プレゼン資料作成 発表資料作成	
第9回	グループワーク 演習	グループディスカッション 課題情報調査・収集 プレゼン資料作成 発表資料作成	
第10回	グループワーク 演習	グループディスカッション 発表資料作成	
第11回	グループワーク 演習（予備日）	グループディスカッション 発表資料作成	
第12回	プレゼンテーション（温熱療法） ディスカッション	各物理的（温熱）エネルギー特性・生理学的作用が理解できる	
第13回	実習（温熱療法）	実際に各温熱療法を実際に行い、その使用方法が理解できる	
第14回	プレゼンテーション（寒冷療法） ディスカッション	物理的（寒冷）エネルギー特性・生理学的作用が理解できる	
第15回	実習（寒冷療法）	実際に各寒冷療法を実際に行い、その使用方法が理解できる	
テキスト・参考書	教科書：石川 朗 総編集 理学療法テキスト物理療法学・実習 中山書店 参考書：千住秀明 監修 物理療法第2版 神陵文庫		
学修方法	基礎についての講義を行う。各テーマについてグループプレゼンテーションを行う。		
評価方法	授業態度（30％）、グループワーク（40％）、定期試験成績（30％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:10～13:00 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	物理療法学演習	担当教員名	青木 成広【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	物理的エネルギーを生体に与えることで、疼痛の緩解や循環の改善など、生体の有する自然治癒能力を賦活させるように働きかける治療法である。物理療法実習では、物理療法学で学習した温熱療法、寒冷療法、光線療法、電気療法、水治療法、牽引療法等の各種治療法を、実際に物理療法機器を使用し体験することで、その生理学的作用を確認し、手順や使用上の注意点、リスク管理について更に理解を深める。OSCEの物理療法課題内容を盛り込むことにより、臨床実習において円滑な物理療法の実施手順が理解を深める。		
到達目標	1. 温熱療法、電気療法、牽引療法、水治療法等の原理・リスク管理を理解し、健常者を対象に実施する。 2. 実習機器・用具を適切に使用し整理整頓・管理する。 3. 代表的な疾患・障害の物理療法プログラムを立てる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	プレゼンテーション（牽引療法） ディスカッション	各牽引療法の特性と生理学作用が理解できる	
第2回	実習（牽引療法）	各牽引療法の使用方法が理解できる	
第3回	プレゼンテーション（電気刺激療法） ディスカッション	各電気刺激療法の特性と生理学作用が理解できる	
第4回	実習（電気刺激療法）	各電気刺激療法の使用方法が理解できる	
第5回	プレゼンテーション（光線療法） ディスカッション	各光線療法の分類、特性と生理学作用、目的と効果が理解できる	
第6回	実習（光線療法）	各光線療法の使用方法が理解できる	
第7回	プレゼンテーション（光線療法） ディスカッション	各光線療法の分類、特性と生理学作用、目的と効果が理解できる	
第8回	実習（光線療法）	各光線療法の使用方法が理解できる	
第9回	プレゼンテーション（電気療法） ディスカッション	各電気刺激療法の特性と生理学作用が理解できる	
第10回	実習（電気刺激療法）	各電気刺激療法の使用方法が理解できる	
第11回	プレゼンテーション（温熱療法） ディスカッション	各物理的（温熱）エネルギー特性・生理学的作用が理解できる	
第12回	実習（温熱療法）	実際に各温熱療法を実際に行い、その使用方法が理解できる	
第13回	プレゼンテーション（温熱療法） ディスカッション	各物理的（温熱）エネルギー特性・生理学的作用が理解できる	
第14回	実習（温熱療法）	実際に各温熱療法を実際に行い、その使用方法が理解できる	
第15回	実習予備日（各種療法）	実際に各種療法を実際に行い、その使用方法が理解できる	
テキスト・参考書	教科書：石川 朗 総編集 理学療法テキスト物理療法学・実習 中山書店 参考書：千住秀明 監修 物理療法第2版 神陵文庫		
学修方法	各テーマについてグループプレゼンテーションを行う。講義には教科書・資料・スライドを使う。		
評価方法	授業態度（30％）、グループワーク・プレゼンテーション（40％）、定期試験成績（30％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:10～13:00 16:10～17:00 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	日常生活活動学	担当教員名	小島 誠【実務該当教員】・ 稲葉 政徳【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法対象者の日常生活活動練習や家族への助言、環境調整についての実践、指導が実施できるために必要な基礎知識を身につけることを目的とする。本講義では、国際生活分類(ICF)や日常生活活動(ADL)、生活の質(QOL)などの概念、食事・更衣・トイレ動作・入浴・整容といった身の回り動作、BIやFIMおよび動作分析などの評価方法、指導法について学ぶ。さらに、各疾患のADL練習については評価・観察時の視点、機能レベルとの関連、動作時に起こる問題の原因の確認のうえで適切な目標設定とプログラム立案ができることを学ぶ。 授業形態：講義		
到達目標	①日常生活活動(以下ADL)の定義や概念を理解し、説明できるようになる。②代表的なADL評価方法を理解し、説明できるようになる。③代表的な自助具や福祉機器、車椅子、歩行補助具について理解し、支援の用途なども含め説明できるようになる。④各疾患における日常生活活動の特徴や介助方法、動作練習のについて理解し説明できるようになる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	日常生活活動学総論	ADLの範囲と項目、QOLとの関係を理解する。	
第2回	ADL評価とその実際① ADL評価の概要と評価法	ADL評価の位置づけを理解する	
第3回	ADL評価とその実際② 動作分析の視点	動作観察、動作分析の目的を知りその方法を理解する	
第4回	ADL評価とその実際③ バーセルインデックス (BI)	バーセルインデックスの概要と評価方法について理解する	
第5回	ADL評価とその実際④ 機能的自立度評価法 (FIM)	FIMの概要と評価方法について理解する	
第6回	補装具 (移動補助具を中心に)	杖、松葉杖、歩行器、車椅子	
第7回	基本動作①総論	基本動作の意義と種類を理解する	
第8回	基本動作②起居動作	起居動作パターンを理解する	
第9回	基本動作③床上移動・車いす移動	床上易動の目的と種類について理解する 車いす移動のポイントについて理解する	
第10回	基本動作④歩行	歩行のパターンおよび応用歩行動作を理解する	
第11回	身の回り動作	身の回り動作の概念を理解する	
第12回	ADLを支援する機器	福祉用具の種類とその役割について理解する	
第13回	住環境整備	住環境整備の意義と目的について理解する	
第14回	疾患別ADL指導	患者の身体機能に応じたADL動作練習およびポイントを理解する	
第15回	疾患別ADLの症例演習	代表的な症例の心身機能と活動を評価結果から読み取ることができる	
テキスト・参考書	教科書：細田多穂(監修)：日常生活活動学テキスト改訂第3版，南江堂 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	研究室にて。12時20分から13時まで、16時10分から17時20分まで		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	日常生活活動演習	担当教員名	小島 誠【実務該当教員】・ 稲葉 政徳【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	本演習は、理学療法評価学を基盤として各疾患の対象者に見合った日常生活動作練習を実施するために必要な技術を身につけることを目的とする。具体的には、対象者を援助するために各疾患による障害特性を理解しながら、その障害の程度、予後予測からなる練習法、介護指導法、福祉用具の使用等、また生活の質の向上までを網羅した生活現場の日常生活活動等について学習する。また、実践場面を想定しシミュレーション場面を用いて練習、指導について実技を学習する。		
到達目標	①ADL指導に必要な基本的動作について理解できる。 ②動作方法、指導について運動学習視点から適切かつ安全に実践することができる。 ③理学療法の対象となる代表的各疾患患者に対して介助方法を理解し実践することができる。 ④車椅子、歩行補助具、福祉用具等の特性を理解し安全な操作方法、指導ができる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、姿勢と動作の基礎知識	オリエンテーション、支持基底面と重心、姿勢と動作の復習	
第2回	理学療法士としてのADLへの関り	病院や施設、在宅などあらゆる場面でのADLへの関りについて	
第3回	起居動作の理解と介助法	起居動作に対する復習と介助法の習得	
第4回	起立動作・移乗動作の理解と介助法	起立動作や移乗動作について理解を深め、介助法を習得する	
第5回	車椅子操作法	キャスターあげなど車椅子自操に必要なスキル、車椅子介助	
第6回	歩行・段差・階段昇降動作の理解と介助法	障害がある人たちへの安全な段差・階段昇降を指導できる	
第7回	脳卒中片麻痺患者へのADL指導①	片麻痺患者に対しリスク管理をしながら安心なADL指導を目指す	
第8回	脳卒中片麻痺患者へのADL指導②	片麻痺患者に対しリスク管理をしながら安心なADL指導を目指す	
第9回	パーキンソン患者へのADL指導	パーキンソン病患者へのADL指導	
第10回	神経難病患者のADL指導	筋萎縮性側索硬化症などに対してリスク管理しADL指導ができる	
第11回	関節リウマチ、人工股関節置換術後のADL	関節リウマチや人工関節置換術後のADLと指導法を理解する	
第12回	脊髄損傷患者のADL指導①	脊髄損傷者(対麻痺)のADL指導を理解する	
第13回	脊髄損傷患者のADL指導②	脊髄損傷者(四肢麻痺)のADL指導を理解する	
第14回	呼吸器循環気系患者のADL指導について	COPDや狭心症者のADL指導を理解する。	
第15回	トランスファー等の介助方法の実技確認	1人介助、2人介助のほかあらゆる場面の移乗などを理解する。	
テキスト・参考書	教科書：：石川朗，長尾徹15レクチャー理学療法・作業療法テキスト ADL・実習，中山書店 参考書：PT・OTビジュアルテキスト ADL第2版，羊土社		
学修方法	各テーマについての演習を行う。演習には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	適宜行うレポートや実技試験の成績（20％）、定期試験（80％）		
オフィスアワー	研究室にて。12時20分から13時まで、16時10分から17時20分まで		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。遅刻早退はしないでください。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	義肢装具学	担当教員名	酒向 俊治【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーション医療における義肢装具の役割は大変重要である。義肢装具を用いることにより失われた機能・生活能力を獲得できることは本来のリハビリテーションの基本概念である。患者の社会復帰に直接的に関係する理学療法士が、各装具の特性や処方時期を誤ることなく、義肢装具士をはじめとする他の専門職と円滑な連携をとり、その特性、アライメント調整や使用する素材部品、また対象者の病態把握、社会や地域環境等の関係を調整することができる基本的的知識を習得する。また、近年の役割分担が細分化する今、義肢装具士が担う装具のチェックアウトも直接患者と向き合っている理学療法士が正確に評価できる視点を本講義では学んでいく。		
到達目標	①理学療法において義肢装具を用いる目的を述べることができる。 ②各種義肢装具の使用目的を列記できる。 ③義肢装具の使用状況に応じて適切な分類方法を選択できる。 ④義肢装具の特性とその課題を列記し疾患の特性に準じた問題解決方法を考察できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	装具を理解するための運動学	装具の役割と生体に働く力学との関係を理解する。	
第2回	長下肢装具と短下肢装具	長下肢装具、短下肢装具の種類と機能を理解する。	
第3回	靴型装具と下肢装具のチェックアウト	靴型装具の種類を理解する。下肢装具の評価の流れを理解する。	
第4回	上肢装具とそのチェックアウト	上肢装具の目的と種類特徴を理解する。チェックアウトの要点を理解する。	
第5回	頸部体幹装具とそのチェックアウト	頸部体幹装具の種類とその使用目的を説明できる。基本的事項に基づいたチェックアウトを理解する。	
第6回	脳卒中患者・脊髄損傷患者に対する装具	ADLの改善を目的とする上肢装具とその適応について理解する。下肢装具の適応疾患を列挙し説明できる。	
第7回	小児疾患・整形外科疾患患者に対する装具	ADLの改善を目的とする上肢装具とその適応について理解する。下肢装具の適応疾患を列挙し説明できる。	
第8回	スポーツ外傷に対する装具	スポーツ外傷ごとの装具の使用目的とその種類を理解する。（サポーターやテーピング、足底板を含む）	
第9回	切断の原因と切断部位	切断の原因となる疾患についての基本的知識、治療法、理学療法について理解する。	
第10回	切断者の評価と断端管理法	術前、術後の理学療法評価と断端管理、断端評価について理解する。	
第11回	足継手・下腿義足ソケット	義足の足継手について理解する。各種ソケットの特徴について理解する。	
第12回	股義足・膝義足・サイム義足・足部義足	各義足の適応と特徴を理解する。	
第13回	膝継手と大腿義足ソケット	膝制御機構を学び膝折れとの関係を理解する。大腿義足の概要とソケットの種類特徴を理解する。	
第14回	義足歩行の特徴と異常歩行分析と指導	義足歩行の特徴を理解する。義足異常歩行の概略を理解しその対処法を説明できる。	
第15回	義手	義手の種類と特徴を理解する。	
テキスト・参考書	教科書：シンプル理学療法学シリーズ義肢装具学テキスト細田多穂監修（南江堂）		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	理学療法基礎治療技術論	担当教員名	石塚 和重【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	理学療法基礎治療技術論では、理学療法において重要な位置づけとされている運動療法の基礎的理論、技術について学ぶ。運動療法の歴史、および理学療法における位置づけ、個々の関節構造に対応する関節可動域トレーニング方法や筋収縮様式を配慮した筋力トレーニングなどの治療法から運動療法の目的、選択およびその対象と適応、更に実施時のリスク管理などを学修する。また、理学療法を行う上で使用する機器類の操作方法など、注意点など含め、基礎的な治療方法を理解学修する。		
到達目標	1. 基礎的な治療技術について理解する。 2. 疾患に対しての治療方法を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、運動療法とは	運動療法の歴史と位置づけ、実際の内容について理解する。	
第2回	運動方向と筋出力	関節運動における筋活動について理解する。	
第3回	過負荷の原則と特異性の原則	筋力トレーニングにおける原則について理解する。	
第4回	開放性運動連鎖と閉鎖性運動連鎖	開放性運動連鎖と閉鎖性運動連鎖についての運動連鎖について理解する。	
第5回	肩関節疾患に対する治療方法	肩関節周囲炎や腱板断裂に対する治療法を理解する。	
第6回	股関節疾患に対する治療方法	変形性股関節症や人工関節置換術（THA）後などに対する治療方法を理解する。	
第7回	膝関節疾患に対する治療方法	変形性膝関節症や人工関節置換術（TKA）後、などに対する治療方法を理解する。	
第8回	膝靱帯・半月板損傷に対する治療方法	膝靱帯・半月板損傷に対する治療方法を理解する。	
第9回	足部・足関節疾患に対する治療方法	足部・足関節疾患に対する治療方法に対する治療方法を理解する。	
第10回	腰部・脊椎疾患に対する治療方法	疾患の概要と特徴、腰部・脊椎疾患に対する治療方法を理解する。	
第11回	中枢性運動障害（脳卒中）に対する治療方法	中枢性運動障害（脳卒中）に対する治療方法を理解する。	
第12回	中枢性運動障害（脊髄損傷）に対する治療方法	中枢性運動障害（脊髄損傷）に対する治療方法を理解する。	
第13回	中枢性運動障害（脳性麻痺）に対する治療方法	中枢性運動障害（脳性麻痺）に対する治療方法を理解する。	
第14回	高齢者に対する治療方法	高齢者の姿勢や特徴、フレイルなどに対する治療方法を理解する。	
第15回	理学療法とリスク管理	各疾患における理学療法におけるリスクとその管理を理解する。	
テキスト・参考書	教科書：加藤 浩編集：運動器障害理学療法学 MEDICAL VIEW 科書：市橋則明編集：運動療法学 疾患別アプローチの理論と実際 文光堂		教
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	中枢神経系理学療法学	担当教員名	石塚 和重【実務該当教員】・ 高橋 洋【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	中枢神経系疾患の病態や、それに伴う障害について理解する。理学療法場面においてもっとも多い対象と思われる中枢神経系疾患の一つである脳血管障害を中心に、また、脊髄損傷、パーキンソン病や失調症など中枢神経障害の評価と理学療法治療技術についても学習する。さらに、中枢神経障害の理解を深めるため、脳や脊髄の中枢神経の機能解剖を理解する機会とする。これらの併存疾病である嚥下障害に関する知識についても解剖学、生理学的な根拠を示しながら講義を展開する。		
到達目標	中枢神経障害や神経難病について説明できる。 各疾患の病態と理学療法について説明できる。 理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、中枢神経の構造と機能について	脳の構造と領域、脳における情報伝達、脊髄神経回路を理解する。	
第2回	脳血管障害における理学療法1	疾患の病態、症候・障害、医学的検査、理学療法評価を理解する。	
第3回	脳血管障害における理学療法2	脳血管障害の総合評価、各病期の理学療法について理解する。	
第4回	頭部外傷の理学療法	発症と病態生理、医学的検査、理学療法評価と理学療法を理解する。	
第5回	脊髄損傷の理学療法1	疾患の病態、症候・障害、障害レベル（Zancolli）を理解する。	
第6回	脊髄損傷の理学療法2	評価（Frankel、Asia）不完全損傷特殊型について理解する。	
第7回	脊髄損傷の理学療法3	脊髄損傷の合併症、呼吸障害、排尿障害、リハビリテーションを理解する。	
第8回	脊髄損傷の理学療法4	生活機能と社会参加、脊髄損傷の合併症、装具・自助具を理解する。	
第9回	パーキンソン病の理学療法1	疾患の病態、症候・障害、医学的検査、理学療法評価を理解する。	
第10回	パーキンソン病の理学療法2	パーキンソン病の理学療法について理解する。	
第11回	嚥下障害の理学療法	疾患の病態、症候・障害、理学療法評価、理学療法を理解する。	
第12回	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法	疾患の病態、症候・障害、理学療法評価、理学療法を理解する。	
第13回	多発性硬化症の理学療法	疾患の病態、症候・障害、理学療法評価、理学療法を理解する。	
第14回	多発神経炎・ニューロパチーの理学療法	疾患の病態、症候・障害、理学療法評価、理学療法を理解する。	
第15回	末梢神経損傷の理学療法	疾患の病態、症候・障害、理学療法評価、理学療法を理解する。	
テキスト・参考書	鈴木俊明編集：神経障害理学療法Ⅰ MEDICAL VIEW、中山恭秀編集：神経障害理学療法学Ⅱ MEDICAL VIEW		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	運動器系理学療法学	担当教員名	小澤敏夫【実務該当教員】・ 鈴木啓介【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動器疾患には、骨折、筋挫傷や腱、靱帯損傷等の骨関節障害、または胸郭出口症候群、手根管症候群や肘部管症候群等の絞扼性神経障害、脊髄損傷や椎間板ヘルニア、関節リウマチなど様々な組織の障害に起因するさまざまな疾患がある。 運動器疾患の病態や画像評価、それぞれの疾患の理学療法評価や理学療法について解剖学、生理学、運動学、病理学にもとづく医学的根拠とともに学ぶ。理学療法は、保存療法とともに観血的治療において術前・術後理学療法、リスク管理も含めて学ぶ。		
到達目標	運動器疾患について説明できる。 各疾患の病態と理学療法について説明できる。 理学療法を実施する上でのリスク管理を説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	運動器疾患に対する理学療法の目的と効果	関節可動域運動、ストレッチング、筋力増強運動、物理療法	
第2回	肩関節疾患の症状と病態	肩関節周囲炎、腱板損傷、変形性肩関節症、上腕骨近位端骨折	
第3回	肩関節疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第4回	肘関節・前腕疾患の症状と病態	肘部管症候群、肘頭骨折、モンテジア骨折、ガレアッチ骨折	
第5回	肘関節・前腕の疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第6回	手関節疾患の症状と病態	ドケルバン病、手根管症候群、橈骨遠位端骨折、母指中手手根関節の変形性関節症、尺骨突き上げ症候群	
第7回	手関節疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第8回	股関節疾患の症状と病態	変形性股関節症、大腿骨頸部骨折、先天性股関節脱臼	
第9回	股関節疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第10回	膝関節の症状と病態	膝蓋骨骨折、変形性膝関節症、半月板損傷、膝関節の靱帯損傷	
第11回	膝関節疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第12回	足関節疾患の症状と病態	アキレス腱断裂、踵骨骨折、三果骨折、前距腓靱帯損傷、外反拇趾	
第13回	足関節疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
第14回	頸椎・腰椎疾患の症状と病態	ヘルニア、椎間関節障害、神経根障害、むち打ち症、脊髄損傷、後縦靱帯骨化症、腰椎すべり症、腰椎分離症	
第15回	頸椎・腰椎疾患に対する理学療法	各疾患の病態にもとづく理学療法とリスク管理、ホームエクササイズについて	
テキスト・参考書	石川 朗：理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ 中山書店		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	スポーツ障害理学療法学	担当教員名	石塚 和重【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	スポーツ障害は、他選手との接触や転倒などによる外傷、反復した動作により特定の組織に過負荷により生じる過用、誤ったトレーニング方法や負荷量の選択、また、バイオメカニクスの視点から誤った動作からの過負荷により生じる誤用などにより多発されると考えられている。スポーツ障害に関与することも多い理学療法士にとって、その障害に対する基礎知識を身体の機能解剖・バイオメカニクス、競技特性と好発しやすいスポーツ障害、環境因子、さらに栄養学等の視点から学び、スポーツ現場における理学療法の実践的基礎知識を習得する。		
到達目標	各競技特性にもとづいた障害特性について説明できる。 スポーツの環境や選手の抱える疾患とそのリスク管理について説明できる。 スポーツ復帰と障害予防について説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、スポーツ医学と理学療法	スポーツ医学と理学療法、歴史、組織、教育、リスク管理について理解する。	
第2回	スポーツ損傷と予防 1	サッカー等競技特性からみた前十字靱帯損傷の予防について理解する。	
第3回	スポーツ損傷と予防 2	野球等競技特性からみた投球障害の予防について理解する。	
第4回	スポーツ損傷と理学療法の原則	損傷組織の治癒能力、力学的負荷、発生機序と要因、評価と治療、評価の原則、理学療法の原則について理解する。	
第5回	評価と運動療法 1	関節機能、神経筋機能について理解する。	
第6回	評価と運動療法 2	協調性/姿勢制御機能について理解する。	
第7回	物理療法機器と補装具	物理療法機器と補装具・テーピングについて理解する。	
第8回	障がい者スポーツ	障がい者スポーツと外傷について理解する。	
テキスト・参考書	教科書：堀部秀二監修：明解スポーツ理学療法 三輪書店		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	定期試験成績（100％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	発達障害理学療法学	担当教員名	石塚 和重【実務該当教員】・ 稲葉 政徳【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	正常発達についての理解を基盤として、障害がある子どもの運動・認知面などの発達の遅れを的確に評価しそれぞれ障害に対応した介入できる知識の習得を目的とする。正常な運動発達について、粗大運動と原始反射や姿勢反射、平衡反応との関連性を踏まえ解説する。また、理学療法の対象となる代表的な中枢神経障害や染色体異常による障害、筋骨格系障害のほか、近年注目されている自閉症スペクトラムや発達性協調運動障害などの発達障害も含めて各疾患の原因や予後、運動機能障害の特徴を中心とした障害像を学習する。さらに、各々の疾患や障害に特有な理学療法の評価における視点や介入の実際について総合的に講義を進める。		
到達目標	①正常発達とその背景にある原始反射や姿勢反射、立ち直り反応、平衡反応との関係を理解する。②発達障害分野の対象となる各疾患や障害の臨床像を理解し説明する。③発達障害理学療法対象者に用いる主な評価法を理解し説明できる。④各疾患の理学療法的介入について理解し説明できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、発達障害理学療法学総論	講義概要、スケジュール、発達障害理学療法学の全般的な内容	
第2回	正常発達(乳児期)	原始反射や立ち直り反応との関連	
第3回	正常発達(幼児期まで)	認知機能や巧緻動作、日常生活活動など	
第4回	脳性麻痺総論	脳性麻痺とは、異常姿勢反射など	
第5回	脳性麻痺痙直型四肢麻痺・両麻痺・片麻痺、 脳性麻痺アテトーゼ型	痙直型四肢麻痺児両麻痺児片麻痺児、アテトーゼ型に対する評価と理学療法	
第6回	二分脊椎、ペルテス病	二分脊椎やペルテス病に対する評価と理学療法	
第7回	デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)	DMD児に対する評価と理学療法	
第8回	ダウン症候群、知的障害児、自閉スペクトラム症、 発達性協調運動障害	ダウン症児や知的障害児、自閉スペクトラム症、発達性協調運動障害に対する評価と理学療法	
テキスト・参考書	教科書：藪中良彦他編集：小児理学療法学 MEDICAL VIEW		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	定期試験成績（100％）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	内部障害理学療法学	担当教員名	酒向俊浩【実務該当教員】・渡辺 伸一【実務該当教員】・鈴木 啓介【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	本講義では、内部障害の誘因となる生活習慣病や近年注目されるサルコペニア、フレイルとの関連を学習から始まり、内部障害と密接に関わる運動耐容能、A D L制限およびその評価方法を学ぶ。各論では、内部障害をもたらす主要疾患の病態、一般的医学検査、標準的治療などを解剖学、生理学、運動学等の基礎医学の知見を踏まえながら学習する。また、これら疾患に対する適切な理学療法評価と結果の解釈、科学的根拠に基づいた理学療法介入までの一連の過程を学習する。		
到達目標	①内部障害の定義、疫学、内部障害と生活習慣病、サルコペニア・フレイルとの関連を説明できる。 ②呼吸器疾患、心血管疾患、糖尿病、腎疾患、がんの病態、医学検査、標準治療を説明できる。また、それらの疾患に対して理学療法評価および標準的理学療法について理解できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	内部障害理学療法学総論	内部障害の定義、疫学、生活習慣病やサルコペニア・フレイルとの関わりについて学習する。	
第2回	運動耐容能と運動負荷試験	運動時のエネルギー代謝、運動耐容能とその評価法である運動負荷試験について学習する。	
第3回	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺炎の理学療法に必要な疾患知識について学習する。	
第4回	呼吸理学療法（評価）	呼吸器疾患患者に対する理学療法評価と、結果から導き出す臨床推論過程について学習する。	
第5回	呼吸理学療法（理学療法）	呼吸理学療法のエビデンスに基づいた介入手法や運動処方について学習する。	
第6回	呼吸理学療法（リスク管理）	呼吸器疾患患者に対するリスク管理やADL指導について学習する。	
第7回	心血管疾患	心筋梗塞、心不全、弁膜疾患、末梢血管疾患の理学療法に必要な疾患知識について学習する。	
第8回	心血管疾患理学療法（評価）	心血管疾患患者に対する理学療法評価と、結果から導き出す臨床推論過程について学習する。	
第9回	心血管疾患理学療法（理学療法）	心管理理学療法のエビデンスに基づいた介入手法や運動処方について学習する。	
第10回	心血管疾患理学療法（リスク管理）	心血管疾患患者に対するリスク管理やADL指導について学習する。	
第11回	糖尿病	糖尿病、糖尿病合併症の理学療法に必要な疾患知識について学習する。	
第12回	糖尿病理学療法（評価）	糖尿病患者に対する理学療法評価と、結果から導き出す臨床推論過程について学習する。	
第13回	糖尿病理学療法（理学療法）	糖尿病理学療法のエビデンスに基づいた介入手法や運動処方について学習する。	
第14回	糖尿病理学療法（リスク管理）	糖尿病に対するリスク管理やADL指導について学習する。	
第15回	腎臓リハビリテーションとがんリハビリテーション	腎疾患とがんの疾患知識、理学療法評価と、介入手法や運動処方、ADL指導、リスク管理について学習する。	
テキスト・参考書	教科書：解良武士・椿淳裕編集 Crosslink理学療法学テキスト内部障害理学療法学、メジカルビュー社 細田多穂（監修）山崎裕司・川俣幹雄・丸岡弘（編集）：シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト改訂第3版、南江堂 参考書：適宜紹介する		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを適宜用いる。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	地域理学療法学	担当教員名	小島 誠【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	1965年理学療法士が我が国に誕生以来、その初期は、ほとんどの理学療法が医療機関で行われていたが、現在では地域社会で生活する人たちの保健領域にも介入するようになった。医療機関から地域連携クリニカルパス導入で発症から維持期、生活期まで切れ目のないサービスが提供され誰もが住み慣れた地域で障害をもちながら安心して過ごすことが実現可能となつた。このような社会情勢変化の中、本講義が極めて重要である科目となっている。本分野は歴史が浅く関連法改正等の変動性のある中、理学療法士が地域理学療法分やどのような役割を持ち、何をすべきかという本質を学び将来の担い手として活躍できる基本理念、介入方法技術を学習する。		
到達目標	①地域リハビリテーションとはどのようなものかを理解する。 ②地域理学療法と地域リハビリテーションの関係や成り立ちその実際について理解する。 ③介護保険制度について理解を深めるためにサービスを受けるための導入部分について理解する。 ④在宅理学療法で必要な医学的知識・健康評価・住環境・福祉用具を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	地域リハビリテーションの概念	リハビリテーションの定義、自立について理解する。地域リハビリテーションの定義CBRの定義を理解する。	
第2回	地域理学療法の概念	地域理学療法の定義、地域理学療法の歴史を理解する。	
第3回	多職種連携	協働とはなにか、地域理学療法における協働者を列挙できるよう理解し、連携の方法を学ぶ。	
第4回	地域理学療法の対象者	高齢者、障害のある人、障害のある児童の特徴を理解する。	
第5回	介護保険制度・障害者総合支援法	介護保険制度創設の背景、被保険者とサービスとの関係を理解する。支援費制度から自立支援、総合支援への背景を理解する。	
第6回	地域における社会資源	フォーマルサービスとインフォーマルサービスを列挙し理解する。	
第7回	要介護認定とケアマネジメント	要介護認定とケアマネジメントについて理解する。	
第8回	介護保険における理学療法	施設サービス、通所サービス、訪問サービスの中の理学療法の役割を理解する。	
第9回	特定疾患の特徴と介入への視点	疾患を列挙しその特徴を理解する。	
第10回	在宅医療にかかわる知識	呼吸、栄養、褥瘡について理解する。	
第11回	健康状態の評価とリスク管理	生活リズム、バイタル徴陰、の評価を理解し注意すべきリスクを理解する。	
第12回	住環境の整備	住宅と住まいの違いを近いし、住まいに必要とされる条件を列挙できるように成す。	
第13回	福祉用具の導入	福祉用具の歴史と定義を学び、具体的福祉用具を理解する。	
第14回	動作指導と介助法法のポイント	ベッド上の起居についての指導のポイントを理解する。	
第15回	健康増進への取り組み	健康増進のための活動量の視標を理解する。介護予防事業について理解する。	
テキスト・参考書	教科書：ビジュアルレクチャー地域理学療法学浅川育世編（医歯薬出版）		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20％）、定期試験成績（80％）		
オフィスアワー	当該科目授業日 12:20～13:00 16:20～17:30 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅰ（基礎）	担当教員名	理学療法士教員全員 酒向俊治・石塚和重・高橋洋・小澤敏夫・渡辺信一・鈴木啓介・岩島隆・小久保晃・近藤崇史・青木成広・稲葉政徳・小池孝康・小島誠【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次 後期	授業の方法	実習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床実習施設での見学を通して、医療や社会の中での理学療法士の役割と責任を学ぶ。見学による対象者とのコミュニケーションや臨床実習教育者（臨床教育者）の指導から、これまで学んだ基本的知識と疾患、障害像との繋がりを深め、障害の多様性を理解するきっかけとする。臨床教育者、対象者、多職種とのコミュニケーションを通じて、専門職としてふさわしい学びの姿勢、接遇態度を学ぶ。臨床実習終了後には、実習で学んだ内容をまとめ考察すること、これ以降の専門科目を通じての知識習得を、より効果的かつ有意義に行えるよう学習する。		
到達目標	実習施設内での理学療法科の位置づけ、多職種との連携業務の流れ、理学療法士の業務内容を理解できる。疾病・障がいを持つ対象者とのコミュニケーションを通して、基本的知識・技術・態度を学び、理学療法士として必要な資質について理解できる。対象者や医療スタッフ等と良好なコミュニケーションを取ることができる。		
実習方法	1）実習施設は、岐阜近隣の病院、介護老人保健施設等を使用する。 2）学生は原則1施設当たり1～2人に分かれて実習する。 3）学生1人当たりの実習期間は、5日間の集中実習とする。（実習計画は以下のとおり）。 4）実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5）実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6）実習内容は、次のとおりとする。 （1）社会人としての適切な態度の理解と実施。 （2）医療施設、福祉施設におけるリハビリテーション部門の概要と理解。 （3）医療従事者の役割や業務の流れの理解。 （4）医療従事者の患者との関わり方の理解。 （5）守秘義務、個人情報保護の理解・実施。		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、臨床見学、標準予防策等のリスク管理指導、報告書作成等の課題。	
	2日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	3日目	他部門見学、関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	4日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	5日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題、指導者総括。	
テキスト・参考書	才藤栄一監：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 金原出版		
評価方法	実習前評価（30％）、臨床実習経験報告書（50％）、実習経験報告会（20％）		
留意事項 （履修条件他）	1年次配当の必須科目をすべて履修していることを本科目の履修要件とする。 1）実習期間は全出席に努めること。 2）実習前のガイダンスや実習前評価、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。 3）実習経験報告会は聴講者の聴講態度や質問内容、積極性も評価対象となるため意欲的に臨むこと		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅱ（地域）	担当教員名	理学療法士教員全員 酒向俊治・石塚和重・高橋洋・小澤敏夫・渡辺信一・鈴木啓介・岩島隆・小久保晃・近藤崇史・青木成広・稲葉政徳・小池孝康・小島誠【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 前期	授業の方法	実習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設の見学等を通して、利用者が地域の中で充実した生活を送るために、理学療法士が介入する重要性やその手段を学ぶ。地域理学療法学をはじめ、地域包括ケアシステム論、社会福祉概論、生活支援概論などで学んだ知識を実際の臨床場面での経験から統合し、理解を深める。さらに地域ケア会議等に参加することで、多職種連携の重要性、その中での専門職としての役割と責任を理解する。臨床実習終了後には、実習で学んだ内容をまとめ考察することで、これ以降に学ぶ地域理学療法学演習、生活環境学、多職種連携論に活用できるよう学習する。		
到達目標	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割と、地域包括ケア、介護予防の視点から多職種連携の重要性を理解できる。対象者との良好なコミュニケーションを取ることができ、地域における関わり方を主眼に置いた聴取ができる。		
実習方法	1) 実習施設は、岐阜近隣の通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション施設を使用する。 2) 学生は原則ひと施設当たり1～2人に分かれて実習するが、それ以上の人数を配置する場合もある。 3) 学生1人当たりの実習期間は、5日間の集中実習とする。（実習計画は以下のとおり）。 4) 実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 5) 実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 6) 実習内容は、次のとおりとする。 (1)通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの施設形態の理解。 (2)当該施設における理学療法士の役割の理解。 (3)地域包括ケア、介護予防の視点から多職種連携の重要性の理解。 (4)対象者との関わり方の理解。（コミュニケーション・ニード聴取） (5)守秘義務、個人情報保護の理解・実施。		
実習計画および学習課題			
週	曜日	内容	
第1週	1日目	オリエンテーション、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	2日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	3日目	他部門見学、関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。	
	4日目	関連職種見学、臨床見学、地域ケア会議等への参加、報告書作成等の課題。	
	5日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題、指導者総括。	
テキスト・参考書	才藤栄一監：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 金原出版		
評価方法	実習前評価（30％）、臨床実習経験報告書（50％）、実習経験報告会（20％）		
留意事項 （履修条件他）	1年次配当の必須科目をすべて修得していることを本科目の履修要件とする。 1) 実習期間は全出席に努めること。 2) 実習前のガイダンスや実習前評価、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。 3) 実習経験報告会は聴講者の聴講態度や質問内容、積極性も評価対象となるため意欲的に臨むこと。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	実践力演習 I	担当教員名	理学療法士教員全員 酒向俊治・石塚和重・高橋洋・小澤敏夫・渡辺信一・鈴木啓介・岩島隆・小久保晃・近藤崇史・青木成広・稲葉政徳・小池孝康・小島誠【実務該当教員】
学年 開講時期	1 年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医療職は患者、患者の家族、他医療職との関係を築くために礼節、医療職としての知識が不可欠となる。独自の領域においてそれぞれ専門職としての知識と判断力・実践力を必要とする。 本講義ではアクティブラーニングを主体とし、グループディスカッションすることにより、礼節、医療面接技術、基礎的な医学用語、医療チームとしての理学療法士について学ぶ。これらの知識を習得するために医学を学ぶ学生として必要な知識を書籍から読み取る力を学ぶ。また集団の中で様々な役割を持ち、集団活動が円滑に進み集団としての意見をまとめレポートの作成、プレゼンテーションに結びつける手法について学ぶ。		
到達目標	医学を学ぶ学生として必要な読解力、引用力、プレゼンテーション作成方法を実践できる。 リハビリテーション、特に理学療法に関する基礎的な医学用語を使用し説明できる。 医療職としての理学療法士について説明できる。 命と向き合う職種としての危機管理の意味を理解する。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション	本講義で行う情報収集方法、ディスカッション、プレゼンテーションの方法について学ぶ。	
第2回	理学療法士に求められる接遇1	理学療法士として必要な接遇について情報を収集しディスカッションを行う。（グループワーク）	
第3回	理学療法士に求められる接遇2	情報をまとめプレゼンテーション資料を作成する。（グループワーク）	
第4回	理学療法士に求められる接遇3	全体へのプレゼンテーションを行い他のグループとの意見交換からブラッシュアップを行う。	
第5回	理学療法の対象の理解1	ヒトの基本動作（座位・立位・歩行）について情報取集を行い、ディスカッションを行う。（グループワーク）	
第6回	理学療法の対象の理解2	情報をまとめプレゼンテーション資料を作成する。（グループワーク）	
第7回	理学療法の対象の理解3	全体へのプレゼンテーションを行い他のグループとの意見交換からブラッシュアップを行う。	
第8回	シミュレーション教育①	スタンダードブリコーションについて実践技能を学習する。	
第9回	シミュレーション教育②	コミュニケーションについて実践技能を学習する。	
第10回	シミュレーション教育③	ホットパックの実践技能を学習する。	
第11回	シミュレーション教育④	上肢管理（三角巾）の実践技能を学習する。	
第12回	シミュレーション教育⑤	下肢装具の装着介助の実践技能を学習する。	
第13回	シミュレーション教育⑥	車椅子の駆動介助の実践技能を学習する。	
第14回	シミュレーション教育⑦	移乗介助の臨床技能を学習する。	
第15回	総括	シュミレーション教育で行った実践技能のまとめを行う。	
テキスト・参考書	才藤栄一（監）：PT・OTのための臨床技能とOSCEコミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版、金原出版株式会社		
学修方法	各テーマについてのグループディスカッションを行う。ディスカッション後集約し全体へのプレゼンテーション。さらに他者からの意見を、自身のグループの意見に取り入れよいものにブラッシュアップする。		
評価方法	レポート（50％）、実技試験（50％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部 理学療法学科		
授業科目名	実践力演習Ⅱ	担当教員名	理学療法士教員全員 酒向俊治・石塚和重・高橋洋・小澤敏夫・渡辺信一・鈴木啓介・岩島隆・小久保晃・近藤崇史・青木成広・稲葉政徳・小池孝康・小島誠【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次 後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	実践力演習Ⅰにおいて習得した理学療法を学ぶ学生として必要な医療チームの一員としてのスキルを基に、地域社会での健康支援、介護予防、障がい者の自己実現や社会参加に向けた支援、こどもの発達支援、スポーツリハビリテーション等と多岐にわたる理学療法領域で、実践例を情報収集しながら理学療法士の可能性を導く。また後半部分では理学療法の中核を担う評価を題材として、小グループ単位で協同学習し、知識や意見を表現したり集約したりするなかで、他者との協働や相互作用のあるアクティブラーニングの手法を取りながら理学療法能力を身につけていく。		
到達目標	理学療法士と他の医療福祉専門職の働く領域と役割について説明することができる。 理学療法士業務の中核を担う各種評価技術を実践できる。		
授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	地域社会での健康支援と理学療法	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第2回	介護予防事業と理学療法	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第3回	介護保険事業と理学療法	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第4回	身体障がい者の社会参加支援	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第5回	子どもの発達支援と理学療法	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第6回	スポーツ領域での理学療法	実践例を情報収集しその課題と問題点をまとめる。	
第7回	シミュレーション教育①	形態測定の実践技能を学習する。	
第8回	シミュレーション教育②	関節可動域測定について実践技能を学習する。	
第9回	シミュレーション教育③	筋力測定について実践技能を学習する。	
第10回	シミュレーション教育④	感覚検査の実践技能を学習する。	
第11回	シミュレーション教育⑤	反射検査の臨床技能を学習する。	
第12回	シミュレーション教育⑥	補助具の調整におけるの臨床技能を学習する。	
第13回	解剖学実習①	実習を通じて人体の各組織や構造等について理解を深める。	
第14回	解剖学実習②	実習を通じて人体の各組織や構造等について理解を深める。	
第15回	総括	シュミレーション教育で行った実践技能のまとめを行う。	
テキスト・参考書	才藤栄一（監）：PT・OTのための臨床技能とOSCEコミュニケーションと介助・検査測定偏第2版補訂版、金原出版株式会社		
学修方法	各テーマについてのグループワークを行う。シュミレーション教育については小グループによる協同学習を行う。		
評価方法	レポート（50％）、実技試験（50％）		
オフィスアワー	水曜日 16:20～17:20 研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		